



AWS 大規模な移行のためのプロジェクトガバナンスプレイブック

AWS 規範ガイド



AWS 規範ガイド: AWS 大規模な移行のためのプロジェクトガバナンスプレイブック

Copyright © 2026 Amazon Web Services, Inc. and/or its affiliates. All rights reserved.

Amazon の商標およびトレードドレスは Amazon 以外の製品およびサービスに使用することはできません。また、お客様に誤解を与える可能性がある形式で、または Amazon の信用を損なう形式で使用することもできません。Amazon が所有していないその他のすべての商標は Amazon との提携、関連、支援関係の有無にかかわらず、それら該当する所有者の資産です。

Table of Contents

序章	1
大規模な移行に関するガイド	2
ツールとテンプレートについて	2
大規模な移行の管理について	5
ワークストリーム	5
移行パイプライン	5
ハイパーケア期間	6
アジャイルアプローチ	6
ステージ 1: 初期化	7
[開始する前に]	8
タスク: 移行フェーズの開始	8
ステップ 1: キックオフプレゼンテーションを構築する	9
ステップ 2: キックオフミーティングを実施する	10
タスク終了条件	10
タスク: コミュニケーションプランの作成	10
ステップ 1: コミュニケーションチームを作成する	11
ステップ 2: エスカレーション計画を確立する	11
ステップ 3: 会議とその頻度を定義する	13
ステップ 4: 会議プレゼンテーションを準備する	14
ステップ 5: ステージ 1 の定期的な会議をスケジュールする	15
ステップ 6: 変更管理プロセスを理解する	15
タスク終了条件	16
タスク: 通信ゲートの定義	16
ステップ 1: 通信ゲートを定義する	17
ステップ 2: T-minus スケジュールテンプレートを作成する	19
ステップ 3: ゲートごとに標準の E メールテンプレートを作成する	20
タスク終了条件	21
タスク: プロジェクト管理プロセスとツールの定義	21
ステップ 1: プロジェクト管理ツールを選択する	22
ステップ 2: 役割と責任を検証する	22
ステップ 3: 利点追跡オフィスを設立する	23
ステップ 4: プロジェクト概要ダッシュボードを作成する	24
ステップ 5: 財務報告プロセスを作成する	25
ステップ 6: リソースプランを作成する	25

ステップ 7: 決定ログを作成する	27
ステップ 8: RAID ログを作成する	28
タスク終了条件	29
ステージ 2: の実装	30
タスク: ステージ 2 の定期的な会議をスケジュールする	30
タスク: 通信ゲートの完了	31
ゲート 1: T マイナススケジュールを作成する	32
ゲート 2: T-28 コミット会議	33
ゲート 3: T-21 通信	35
ゲート 4: T-14 チェックポイント会議	36
ゲート 5: T-7 通信	37
ゲート 6: T-1 go または no-go ミーティング	38
ゲート 7: T-0 カットオーバー会議	39
ゲート 8: ハイパーケア期間の開始	40
ゲート 9: ハイパーケア期間の終了	41
リソース	42
AWS 大規模な移行	42
その他のリファレンス	42
寄稿者	43
ドキュメント履歴	44
用語集	45
#	45
A	46
B	48
C	50
D	53
E	57
F	60
G	61
H	62
I	64
L	66
M	67
O	71
P	74
Q	77

R	77
S	80
T	84
U	85
V	86
W	86
Z	87
.....	lxxxviii

AWS 大規模な移行のためのプロジェクトガバナンスプレイブック

Amazon Web Services ([寄稿者](#))

2022 年 2 月 ([ドキュメント履歴](#))

Note

このガイドで参照されるプロジェクトチーム、ロール、ワークストリームについては、[AWS 大規模な移行のための Foundation プレイブック](#)で説明されています。このガイドのプロジェクトガバナンスタスクを開始する前に、[基盤プレイブック](#)を完了することをお勧めします。

への大規模な移行を成功させるには、効果的なプロジェクトガバナンスが不可欠です AWS クラウド。プロジェクトガバナンスは、移行を完了するためのルール、境界、計画を定義します。一般的なプロジェクトガバナンスツールには、コミュニケーション計画、利益追跡オフィス、エスカレーション計画、移行とカットオーバーの品質ゲートなどがあります。このプレイブックを完了すると、移行プロジェクトの実行方法を定義するガバナンスを作成およびカスタマイズできます。

大規模な移行、移行、モダナイズの第 3 フェーズでは、プロジェクトガバナンスモデルを改良し、移行中に使用するツールとテンプレートの多くを作成します。このプロセスを開始する前に、評価フェーズと準備フェーズを完了する必要があります。大規模な移行のフェーズの詳細については、「[大規模な移行用ガイド](#)」の「[大規模な移行のフェーズ](#) AWS」を参照してください。

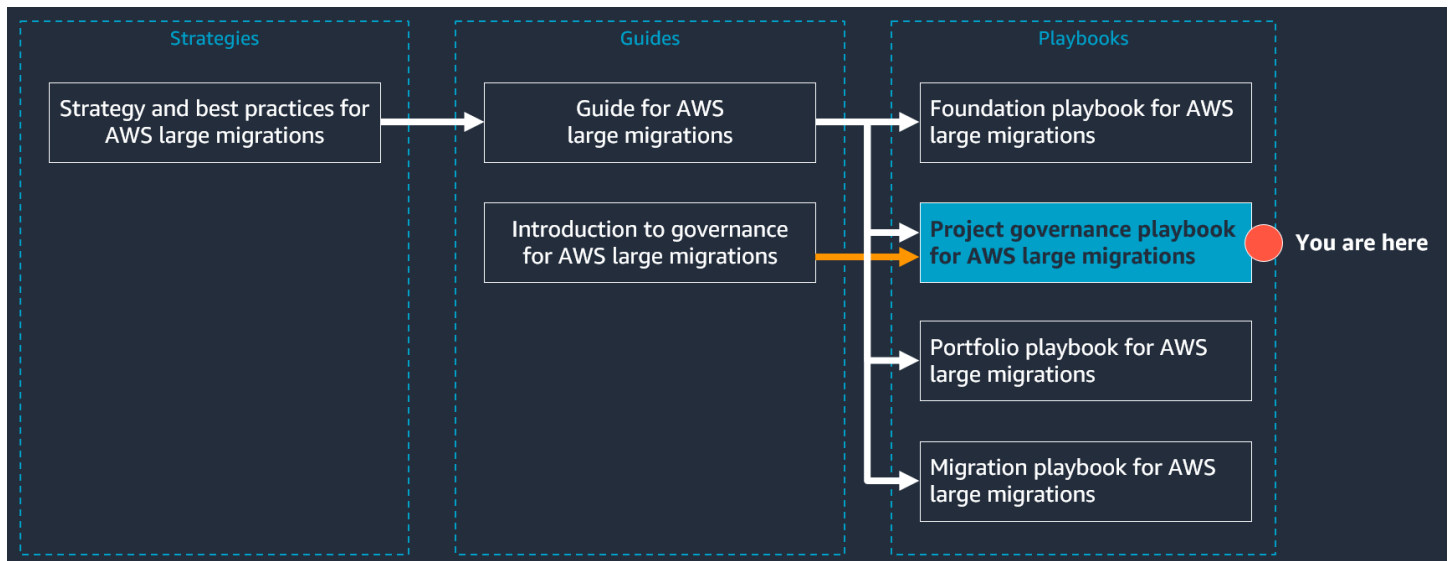
このプレイブックは、大規模な移行プロジェクトのための効果的なガバナンスモデルを迅速に開発するためのstep-by-stepアプローチを提供します。ここでは、移行フェーズ、初期化、実装の両方の段階にまたがる大規模な移行のプロジェクトガバナンスについて説明します。

- ステージ 1 では、チームの準備状況を評価し、ガバナンスモデルを立ち上げます。大規模な移行プロジェクトを管理するプロセスとツールを定義します。ステージ 1 の最後に、独自のユースケースに合わせてカスタマイズされたプロジェクトガバナンスツールがあります。
- ステージ 2 では、プロジェクトガバナンスプランに準拠するために、前のステージで作成したツールを使用します。

大規模な移行に関するガイドランス

300 台以上のサーバを移行することは「大規模な移行」と見なされます。大規模な移行プロジェクトの人材、プロセス、テクノロジーの課題は、通常、ほとんどの企業にとって新しいものです。このドキュメントは、への大規模な移行に関する AWS 規範的ガイドランスシリーズの一部です AWS クラウド。このシリーズは、クラウドへの移行を合理化するために、最初から正しい戦略とベストプラクティスを適用するのに役立つように設計されています。

次の図は、このシリーズの他のドキュメントを示しています。最初に戦略を確認し、次にガイドを確認し、プレイブックに進みます。シリーズ全体にアクセスするには、[「への大規模な移行 AWS クラウド」](#)を参照してください。



ツールとテンプレートについて

このプレイブックでは、以下のツールを作成します。これらのツールを使用して、移行チーム、アプリケーションオーナー、プロジェクトスポンサー、経営幹部など、プロジェクトのステークホルダーとコミュニケーションをとります。以下のツールの目的は、すべてのプロジェクトアクティビティの透明性を最大化し、大規模な移行を加速させることです。

- キックオフプレゼンテーション
- タイプと頻度を含む会議計画
- エスカレーション計画
- 週次プロジェクトステータスレポート
- ウェーブワークショップ

- カットオーバー準備状況評価プレゼンテーション
- メンバーシップステータスレポート
- 利点追跡オフィス
- プロジェクト概要ダッシュボード
- 財務レポートプロセス
- リソースプラン
- 決定ログ
- リスク、アクション、問題、依存関係 (RAID) ログ
- ゲート通信やリマインダーなどのコミュニケーションプランとテンプレート

この[プレイブックに含まれているプロジェクトガバナンスプレイブックテンプレート](#)を使用し、ポートフォリオ、プロセス、環境に合わせてカスタマイズすることをお勧めします。テンプレートは、効果的なコミュニケーションを促進し、明確な期待値を設定し、経営陣、アプリケーションオーナー、移行プロジェクトのステークホルダーを一致させるように設計されています。このプレイブックの手順では、チームがカスタマイズできる各テンプレートの目的に関するコンテキストを提供します。このプレイブックには、次のテンプレートが含まれています。

- カットオーバー準備状況評価テンプレート – このテンプレートは、品質ゲートと主要なプロジェクト管理マイルストーンを通じて各ウェーブの進行状況を追跡するのに役立ちます。
- 財務管理パステンプレート – このテンプレートは、プロジェクトスポンサーと定期的に財務状況を確認するために使用されます。
- キックオフプレゼンテーションテンプレート – このプレゼンテーションテンプレートは、ステージ 1 の早い段階でのキックオフミーティングで使用します。
- 会議計画テンプレート – このテンプレートを使用して、定期的な会議のタイプを定義し、その頻度を確立し、主要な参加者を特定します。
- ステータスレポートテンプレート – このテンプレートを使用して、プロジェクトステータスレビューミーティングの標準プレゼンテーション形式を作成します。
- ステアリング会議テンプレート – このテンプレートを使用して、ステアリングステアリング会議用の標準プレゼンテーション形式を作成します。
- ゲートコミュニケーションテンプレート – これらの E メールコミュニケーションテンプレートを使用して、ウェーブのステータスをプロジェクトのステークホルダーと共有し、最近の変更や今後のアクティビティについて知らせます。このプレイブックには、次のテンプレートが含まれています。

- カットオーバー完了のコミュニケーションテンプレート
- ハイパーケア完了のコミュニケーションテンプレート
- T-0 の通信テンプレート
- T-1 の通信テンプレート
- T-7 の通信テンプレート
- T-14 の通信テンプレート
- T-21 の通信テンプレート
- T-28 の通信テンプレート

大規模な移行の管理について

大規模な移行プロジェクトを管理および効果的に管理するには、プロジェクトマネージャーはポートフォリオ、大規模な移行のフェーズ、各ワークストリームの責任について高レベルに理解する必要があります。

このセクションは、以下のトピックで構成されます。

- [大規模な移行のワークストリーム](#)
- [移行パイプラインへのフィード](#)
- [ハイパーケア期間](#)
- [アジャイルアプローチの確立](#)

大規模な移行のワークストリーム

移行フェーズでは、いつでも、基盤、プロジェクトガバナンス、ポートフォリオ、移行ワークストリームの少なくとも4つのワークストリームが同時に運用されています。これらは大規模な移行プロジェクトの中核的なワークストリームであり、プロジェクトには追加のサポートワークストリームがある場合があります。詳細については、[「大規模な移行のための Foundation プレイブック」の「大規模な移行のワークストリーム AWS」](#)を参照してください。

移行パイプラインへのフィード

移行ファクトリーでは、ウェーブプランニングと移行が同時に行われ、継続的に運用されます。ポートフォリオチームはウェーブを計画して移行パイプラインをフィードし、移行チームは移行とワークロードのカットオーバーを実行してパイプラインを完了します。ポートフォリオチームは初期化段階の最後に5つのウェーブを準備し、実装段階は移行チームが準備したウェーブの1つ以上を移行し始めたときに開始されます。

ウェーブごとに、ポートフォリオのワークストリームは1~2週間、移行ワークストリームは通常3~4週間実行されます。ポートフォリオワークストリームは移行ワークストリームより5ウェーブ先にあるため、ポートフォリオと移行ワークストリームの間には常に5ウェーブバッファがあります。実装段階では、ポートフォリオチームと移行チームの両方が引き続きウェーブを処理し、バッファによって移行ワークストリームのサーバーが不足して移行できなくなります。ウェーブスケジュールの例については、[「大規模移行ガイド」の「ステージ 2: 大規模移行の実装 AWS」](#)を参照してください。

ポートフォリオチームはアプリケーションを優先し、論理移動グループのウェーブに割り当てます。ウェーブを計画するとき、ポートフォリオチームは移行の複雑さ、アプリケーションの類似点、アプリケーションとインフラストラクチャの依存関係を考慮します。これにより、アプリケーションとその依存関係全体が確実に移行されます。ウェーブプランニングの詳細については、[AWS「大規模な移行のためのポートフォリオプレイブック」](#)を参照してください。プロジェクトガバナンスでは、アプリケーション、サーバー、アプリケーション所有者など、ウェーブとスプリントに関する情報を管理および追跡します。Confluence サイトのダッシュボード、Microsoft Excel のリスト、またはツールの組み合わせを使用できます。

ハイパーケア期間

カットオーバーが完了すると、移行されたアプリケーションとサーバーはハイパーケア期間に入ります。ハイパーケア期間中、移行チームは、問題に対処するためにクラウド内の移行されたアプリケーションを管理およびモニタリングします。通常、この期間は 1~4 日です。ハイパーケア期間の終了時に、移行チームはアプリケーションの責任をクラウド運用 (Cloud Ops) チームに移します。現時点では、ウェーブは完了したと見なされます。

アジャイルアプローチの確立

アジャイルなアプローチを確立することで、プロジェクトチームは移行中の変化に柔軟に対応し、迅速に適応できます。大規模な移行には、スクラムフレームワークを採用することをお勧めします。[AWS 大規模な移行の移行プレイブック](#)では、スプリントにウェーブを割り当てます。スプリントは、移行チームがそのスプリント内のすべてのウェーブに作業する一定期間です。各スプリントの期間が 2 週間の場合、各ウェーブは少なくとも 2 つのスプリントにまたがります。スプリントは、スプリントの計画や毎日のスタンドアップミーティングの実施、レビュー、遡及などの標準イベントで構成されます。

スプリントの現在のタスクと保留中のタスクで構成されるスプリントバックログを使用して、アクティビティを管理します。このプレイブックでは、進行状況を追跡するためのプロジェクト管理ツールを選択します。Jira や Confluence などのプロジェクトや問題追跡アプリケーションを選択し、カンバンボードやガントチャートなどのタスクを表す視覚的なアプローチを選択することもできます。これらのツールの 1 つ以上でスプリントバックログを追跡することで、プロジェクトの透明性を提供し、各タスクに所有者を割り当て、明確な期限を設定します。

ステージ 1: 大規模な移行を初期化する

移行フェーズの早い段階でガバナンスモデルを定義し、キックオフミーティングを実施して、アプリケーションの移行を開始する前にプロジェクトチーム全体と共有できるようにすることが重要です。ガバナンスモデルがすでに設定されている場合は、「」に進みます。ここでは[ステージ 2: 大規模な移行の実装](#)、ステージ 1 で確立されたプロジェクトガバナンスツールとモデルを使用します。適切な参加者、コミュニケーション形式、会議コンテンツを最初に確立することで、移行の加速に集中できます。プロジェクト会議やコミュニケーションの計画が効果的でない場合、チームは移行に取り組むのではなく、会議やステータスの更新にあまりにも多くの時間を費やす可能性があります。

Note

この章のタスクは、同時に実行することを目的としています。そのタスクの手順に記載されているように、タスクの多くは相互依存しています。

ステージ 1 は、以下のセクション、タスク、ステップで構成されます。

- [\[開始する前に\]](#)
- [タスク: 移行フェーズの開始](#)
 - [ステップ 1: キックオフプレゼンテーションを構築する](#)
 - [ステップ 2: キックオフミーティングを実施する](#)
- [タスク: コミュニケーションプランの作成](#)
 - [ステップ 1: コミュニケーションチームを作成する](#)
 - [ステップ 2: エスカレーション計画を確立する](#)
 - [ステップ 3: 会議とその頻度を定義する](#)
 - [ステップ 4: 会議プレゼンテーションを準備する](#)
 - [ステップ 5: ステージ 1 の定期的な会議をスケジュールする](#)
 - [ステップ 6: 変更管理プロセスを理解する](#)
- [タスク: 通信ゲートとスケジュールの定義](#)
 - [ステップ 1: 通信ゲートを定義する](#)
 - [ステップ 2: T-minus スケジュールテンプレートを作成する](#)
 - [ステップ 3: ゲートごとに標準の E メールテンプレートを作成する](#)
- [タスク: プロジェクト管理プロセスとツールの定義](#)

- [ステップ 1: プロジェクト管理ツールを選択する](#)
- [ステップ 2: すべての移行アクティビティの役割と責任を検証する](#)
- [ステップ 3: 利点追跡オフィスを設立する](#)
- [ステップ 4: プロジェクト概要ダッシュボードを作成する](#)
- [ステップ 5: 財務報告プロセスを作成する](#)
- [ステップ 6: リソースを管理およびスケーリングする方法を決定する](#)
- [ステップ 7: 決定ログを作成する](#)
- [ステップ 8: RAID ログを作成する](#)

[開始する前に]

次のように、大規模な移行のプロジェクトガバナンスの定義に進む準備ができていることを確認します。

- 前のフェーズの完了 – プロジェクトガバナンスの定義は、大規模な移行の第 3 フェーズと最終フェーズで行われます。まだ行っていない場合は、評価フェーズと動員フェーズを完了することをお勧めします。詳細については、[AWS「大規模な移行用ガイド」](#)を参照してください。
- 利用可能な専門知識 – 大規模な移行プロジェクトを初めて使用する場合、利用可能なドキュメントを確認し、サポートが必要な場合は、社内または外部の対象分野のエキスパートと協力してチームを準備することを検討してください。
- 移行チームの準備 – アプリケーションのビジネスとユーザーへの影響を最小限に抑えるために、カットオーバーは通常の勤務時間後に発生する可能性があります。プロジェクトでその場合は、移行チームとアプリケーション所有者が作業スケジュールを認識し、準備していることを確認します。

タスク: 移行フェーズの開始

プロジェクトの移行フェーズを開始するには、キックオフミーティングをスケジュールします。この会議は、大規模な移行プロジェクト中に 1 回行われます。通常、ステージ 1 ではできるだけ早くこの会議を行い、大規模な移行を初期化します。プロジェクトチームメンバーを調整し、期待を早期に設定することで、ワークストリームは各自の責任を理解し、ランブックを構築できます。その目的は、プロジェクトの範囲、指針、コミュニケーション計画、チームメンバーの責任に関して、ステークホルダーとワークストリームを調整することです。

このタスクでは、以下を実行します。

- [ステップ 1: キックオフプレゼンテーションを構築する](#)
- [ステップ 2: キックオフミーティングを実施する](#)

ステップ 1: キックオフプレゼンテーションを構築する

このステップでは、キックオフミーティングのプレゼンテーションを作成します。次のステップで説明したように、このプレゼンテーションを作成するには、このプレイブックの他のタスクで定義した計画とプロセスの一部が必要です。

すべてのプロジェクトにはニュアンスがありますが、[プロジェクトガバナンスプレイブック](#)テンプレートで使用できる Kickoff プレゼンテーションテンプレート (Microsoft PowerPoint 形式) から始めることをお勧めします。このテンプレートにはコアコンポーネントが含まれており、プロジェクトに合わせてカスタマイズできます。テンプレート全体を確認してカスタマイズする必要がありますが、少なくとも次のスライドを更新してください。

1. スライド 4 では、プロジェクトの範囲、指針、成功に不可欠な要因、成功を測定する基準を定義します。プロジェクト管理オフィス、利害関係者、移行チームと協力して、このスライドを組織に合わせてカスタマイズできます。
2. スライド 5 では、プロジェクトの大まかなスケジュールのロードマップを作成します。
3. スライド 6 では、移行に関係するチームと主要な個人を文書化します。ネットワークなど、組織内の他のチームからサポートを提供している個人を特定します。名前とロールで個人を特定し、内部リソースと外部リソースを区別します。大規模な移行プロジェクトの一般的なロールのリストについては、[「大規模な移行のための Foundation プレイブック」](#)の「[ロール AWS](#)」を参照してください。
4. スライド 10 で、[から T-minus スケジュールを追加します](#) [ステップ 2: T-minus スケジュールテンプレートを作成する](#)。必要に応じて新しいスライドを追加して、リプラットフォームやリファクタリングなど、移行戦略ごとに T-minus スケジュールを含めます。
5. スライド 13 で、[に従って会議計画を更新します](#) [ステップ 3: 会議とその頻度を定義する](#)。
6. スライド 16 で、[に従ってエスカレーション計画を追加します](#) [ステップ 2: エスカレーション計画を確立する](#)。
7. スライド 20 で、共有リポジトリとプロジェクト管理リソースへのリンクを追加します。

ステップ 2: キックオフミーティングを実施する

このステップでは、キックオフミーティングをスケジュールして実施します。以下の操作を実行します。

1. 移行フェーズのできるだけ早い段階でキックオフミーティングをスケジュールします。一般的な会議参加者には、プロジェクトのステークホルダー、経営幹部、ワークストリームリーダーが含まれます。
2. キックオフミーティングを実施し、前のステップで作成したプレゼンテーションを使用します [ステップ 1: キックオフプレゼンテーションを構築する](#)。
3. 会議で提示された計画とプロセスに変更がある場合は、会議後にそれに応じて計画を更新します。
4. 大規模な移行プロジェクトのすべてのメンバーが必要に応じてプレゼンテーションにアクセスできるように、キックオフプレゼンテーションを共有リポジトリに保存します。

タスク終了条件

このタスクは、以下を実行すると完了します。

- プロジェクトの Kickoff プレゼンテーションテンプレートをカスタマイズしました。
- キックオフミーティングを実施しました。
- キックオフプレゼンテーションを共有リポジトリに保存しました。

タスク: コミュニケーションプランの作成

ガバナンスモデルの重要な要素は、アプリケーション所有者との通信を担当するユーザーと、アプリケーション所有者が応答しない場合にエスカレーションする方法を特定することです。このタスクでは、コミュニケーションの責任者を定義し、定期的なコミュニケーションと会議の内容を決定し、標準のコミュニケーションテンプレートを作成し、問題をエスカレーションする必要がある場合にどうなるかを決定します。

このタスクでは、以下を実行します。

- [ステップ 1: コミュニケーションチームを作成する](#)
- [ステップ 2: エスカレーション計画を確立する](#)

- [ステップ 3: 会議とその頻度を定義する](#)
- [ステップ 4: 会議プレゼンテーションを準備する](#)
- [ステップ 5: ステージ 1 の定期的な会議をスケジュールする](#)
- [ステップ 6: 変更管理プロセスを理解する](#)

ステップ 1: コミュニケーションチームを作成する

コミュニケーションチームは、プロジェクトガバナンスワークストリームの一部です。このチームは、主要な移行マイルストーンにおけるプロジェクトのステークホルダーとのコミュニケーション、会議のスケジュール、フィードバックの調整、必要な会議の参加者の出席の確認を担当します。コミュニケーションチームのアクティビティは通常、で定義したコミュニケーションゲートによって管理されます [タスク: 通信ゲートとスケジュールの定義](#)。

以下の操作を実行します。

1. このチームの適切なメンバーを特定します。
2. コミュニケーションリードを指定します。この個人は、移行期間中、ゲートミーティングのスケジュールリング、他のワークストリームからの質問やフィードバックの調整、必要な参加者との会議出席の確認について、単一の連絡窓口として機能します。

ステップ 2: エスカレーション計画を確立する

移行で問題が発生した場合は、迅速に解決できる必要があります。移行の開始前にエスカレーション計画を定義することで、チームに明確なアクションプランを事前に提供できるため、遅延、フラストレーション、驚きを防ぐことができます。ビジネスユニットごとにシングルスレッドリーダーを指定することをお勧めします。アプリケーション所有者が関与または応答していない場合は、その個人にエスカレーションできます。

通常、このステップはプロジェクトマネージャーとプロジェクトスポンサーによって完了します。エスカレーション計画を確立するときは、問題のタイプ、問題をエスカレーションする状況 (トリガーと呼ばれる) を定義し、エスカレーションの階層を定義する必要があります。推奨階層は 3 つまでです。階層ごとに、対象者または応答所有者、および対象者が応答する必要がある時間を特定する必要があります。たとえば、最初のエスカレーション対象者が 24 時間以内に問題を解決しない場合は、問題を別の対象者である 2 番目の階層にエスカレーションします。エスカレーションのたびに、以前の階層の対象者を CC します。

以下の操作を実行します。

1. エスカレーション計画を作成します。Jira や Confluence などの専用のプロジェクト管理ツールを使用するか、Microsoft Excel でリストを作成できます。以下を文書化することをお勧めします。
 - 予想される問題または経験した問題の簡単な説明
 - トリガー
 - エスカレーション階層と対象者
 - 各階層が問題に応答する必要がある時間
2. ワークストリームリードとプロジェクトスポンサーとミーティングを行い、エスカレーション計画を確認します。
3. エスカレーション計画をプロジェクトチーム全体と共有し、すべてのメンバーがエスカレーションプロセスに精通していることを確認します。
4. エスカレーション計画を共有リポジトリに保存し、すべてのプロジェクトチームメンバーがアクセスできることを確認します。

#	問題	[Trigger] (トリガー)	階層 1		階層 2		階層 3
			対象者	の後にエスカレーションする	対象者	の後にエスカレーションする	対象者
1	ワークロードを移行するには、ファイアウォールポートを開く必要があります AWS	T-28 コミット会議でファイアウォールが開かれていない	ネットワークチーム、移行リーダー	24 時間	ネットワークチームマネージャー	24 時間	エグゼクティブチーム、影響を受けるビジネスユニットのリーダー

ステップ 3: 会議とその頻度を定義する

このステップでは、移行プロジェクトの定期的な会議を特定し、会議の頻度または頻度を設定します。会議とその頻度を文書化すると、プロジェクトの透明性が向上します。問題が発生した場合、チームメンバーは適切な会議をすばやく特定して対処できます。会議の名前、頻度、主要目標、所有者と参加者を特定する必要があります。移行の進行に伴ってこのドキュメントを更新し、新しい会議参加者を特定する必要がある場合があります。

大規模な移行プロジェクトでは、以下の定期的な会議が一般的です。

1. 運営委員会会議 – これらの会議は通常、月に 2 回開催され、プロジェクトのステータスを共有し、経営幹部の関与を必要とする問題を解決することが目的です。この会議の参加者には、通常、プロジェクトスポンサー、経営幹部、プロジェクト管理オフィスの担当者が含まれます。
2. プロジェクトステータスレビュー会議 – これらの会議は通常、週に 1 回開催されます。目的は、ワークストリームレベルでプロジェクトのステータスを確認し、リソースまたは対象分野のエキスパートの必要性を評価することです。この会議の参加者には、プロジェクトマネージャー、プロジェクトステークホルダー、ワークストリーム所有者、移行リーダーが含まれます。
3. 毎日のスタンドアップ – 1 日に 1 回開催される非常に短い会議です。会議は参加者が椅子を必要としないほど短くする必要があるので、スタンドアップと呼ばれます。目的は、計画されたタスクと最近完了したタスクを確認し、問題を明らかにすることです。毎日のスタンドアップでは、通常、で決定する Kanban ボードやガントチャートなどのビジュアルタスク管理ツールを使用します [ステップ 1: プロジェクト管理ツールを選択する](#)。
4. インフラストラクチャと運用のチェックポイント会議 – これらの会議は通常、週に 2 回開催されます。目的は、移行の進行状況の確認、アクティブな問題の確認、エスカレーションが必要かどうかの判断、ワークストリーム間のコラボレーション、次のスプリントのためのリソースの計画です。この会議の参加者には、RACI が定義した移行アクティビティを所有する技術チームメンバーが含まれます。
5. 移行営業時間 – 今回は、アプリケーション所有者がサポートやガイダンスを求めるためのオープンミーティングとして予約されています。営業時間は週に 3 回保持することをお勧めします。

[プロジェクトガバナンスプレイブック](#)テンプレートで利用可能な会議計画テンプレート (Microsoft Excel 形式) から開始することをお勧めします。このテンプレートにはデフォルトの例が含まれており、プロジェクトに合わせてカスタマイズできます。

ステップ 4: 会議プレゼンテーションを準備する

で定義されているように[ステップ 3: 会議とその頻度を定義する](#)、大規模な移行では、ワークストリームを調整し、問題に対処し、移行がスケジュールどおりであることを確認するために頻繁な会議が必要です。これらの会議の標準形式とプレゼンテーションを定義すると、参加者は会議に対する一貫した期待を確立できます。また、各会議の準備にかかる時間を短縮するのに役立ちます。このステップでは、定期的に予定されている会議用のプレゼンテーションテンプレートを作成します。

[プロジェクトガバナンスプレイブックテンプレートに含まれている次のテンプレート](#)から始めることをお勧めします。

- ステータスレポートテンプレート (Microsoft PowerPoint 形式)
- ステアリング委員会会議テンプレート (Microsoft PowerPoint 形式)
- ウェブワークショップテンプレート (Microsoft PowerPoint 形式)
- カットオーバー準備状況評価テンプレート (Microsoft Excel 形式)

以下の操作を実行します。

1. プロジェクトの運営委員会会議テンプレートをカスタマイズします。
2. プロジェクトのステータスレポートテンプレートをカスタマイズします。このプレゼンテーションは、通常毎週開催されるプロジェクトステータスレビュー会議で使用されます。このテンプレートは、前のステップで作成したエグゼクティブレベルの概要のより堅牢なバージョンです。
3. プロジェクトの Wave ワークショップテンプレートをカスタマイズします。このプレゼンテーションは、T-28 および T-14 コミット会議で使用されます。T-28 コミット会議では、アプリケーション所有者はウェブにコミットし、T-14 コミット会議ではカットオーバー日に再コミットします。
4. プロジェクトのカットオーバー準備状況評価テンプレートをカスタマイズします。このプレゼンテーションは、インフラストラクチャと運用のチェックポイント会議で、移行アクティビティの現在の進行状況を確認するために使用されます。プレゼンテーションの目的は、進行状況ゲートが満たされ、アプリケーションがカットオーバーの準備が整ったことをチームが確認できるようにすることです。
5. これらのプレゼンテーションテンプレートは、会議所有者がアクセスできる共有リポジトリに保存します。
6. 会議の種類ごとに、会議の所有者がプレゼンテーションを保存できる共有リポジトリを定義します。各会議の後、会議の所有者は、会議の参加者とプロジェクトチームがこの情報を参照できる

ように、プレゼンテーションのバージョンとその他の会議アーティファクトをこのリポジトリに保存する必要があります。たとえば、プロジェクトステータスレビュー会議のリポジトリには、各会議で提示されたステータスレポートのコピーが含まれます。

ステップ 5: ステージ 1 の定期的な会議をスケジュールする

動員フェーズを完了した場合は、このステップでいくつかの会議を既に確立している可能性があります。まだスケジュールしていない会議については、このステップを完了します。で作成した会議計画に従って[ステップ 3: 会議とその頻度を定義する](#)、会議所有者は次の定期的な会議をスケジュールする必要があります。

- 各ワークストリームの毎日のスタンドアップ
- 財務報告会議
- 運営委員会会議
- プロジェクトのステータスレビュー
- インフラストラクチャと運用のチェックポイントミーティング

これらの会議は、移行が完了するまで続行されます。

ステップ 6: 変更管理プロセスを理解する

大規模な移行プロジェクトを成功させるには、組織の変更管理プロセスを理解することが不可欠です。変更管理プロセスは、移行のスケジュールと期限に影響します。各ワークロードに必要な情報と承認を理解する必要があります。以下を理解していることを確認してください。

- ウェーブプラン内のアプリケーションとサーバーのリストを送信する期限
- 予定日にワークロードを移動するための承認を取得するために必要な基準と情報
- 完了する必要がある正式なプロセスドキュメント
- ファイアウォールまたはドメインの変更を送信するプロセス

すべての移行リードは、検出アクティビティの前に変更管理プロセスを理解する必要があります。一部の移行関連のタスクでは承認が必要であり、チームメンバーは変更管理プロセスにおける各自の責任を理解する必要があります。トレーニングの詳細については、「[大規模な移行のための Foundation プレイブック](#)」の「[大規模な移行に必要なトレーニングとスキル](#)」を参照してください。AWS

タスク終了条件

このタスクは、以下を実行すると完了します。

- コミュニケーションチームを作成しました。
- すべての会議に参加者を定義しました。
- エスカレーション計画を確立し、承認した。
- 会議計画で定義されているように、ステージ 1 で始まる定期的な会議がスケジュールされている。
- 各会議で使用する標準プレゼンテーションを定義しました。
- 会議ごとに、すべてのプレゼンテーション、アクティビティ、アーティファクトをキャプチャするための共有リポジトリを定義しました。
- すべての変更管理プロセスを理解し、文書化します。

タスク: 通信ゲートとスケジュールの定義

大規模な移行プロジェクトのステージ 2 では、ポートフォリオワークストリームがウェーブを積極的に計画しており、移行ワークストリームがウェーブを移行しています。プロジェクトガバナンスワークストリームは、これらのアクティビティを監督し、コミュニケーションゲートを通じて波をガイドするのに役立ちます。コミュニケーションゲートは、進行中のウェーブアクティビティとステータスをステークホルダーに正式に伝えるときのタッチポイントです。各ゲートで、指定されたゲート所有者は指定された対象者にウェーブステータスについて通知し、今後のアクティビティや会議についてアプリケーション所有者にリマインドします。ゲートは通常、移行のマイルストーンに対応し、コミュニケーションゲートを定義すると、すべてのプロジェクトステークホルダーの透明性を最大化できます。ウェーブを個別に移動するか、ウェーブをグループ化できます。

このタスクでは、以下を実行します。

- [ステップ 1: 通信ゲートを定義する](#)
- [ステップ 2: T-minus スケジュールテンプレートを作成する](#)
- [ステップ 3: ゲートごとに標準の E メールテンプレートを作成する](#)

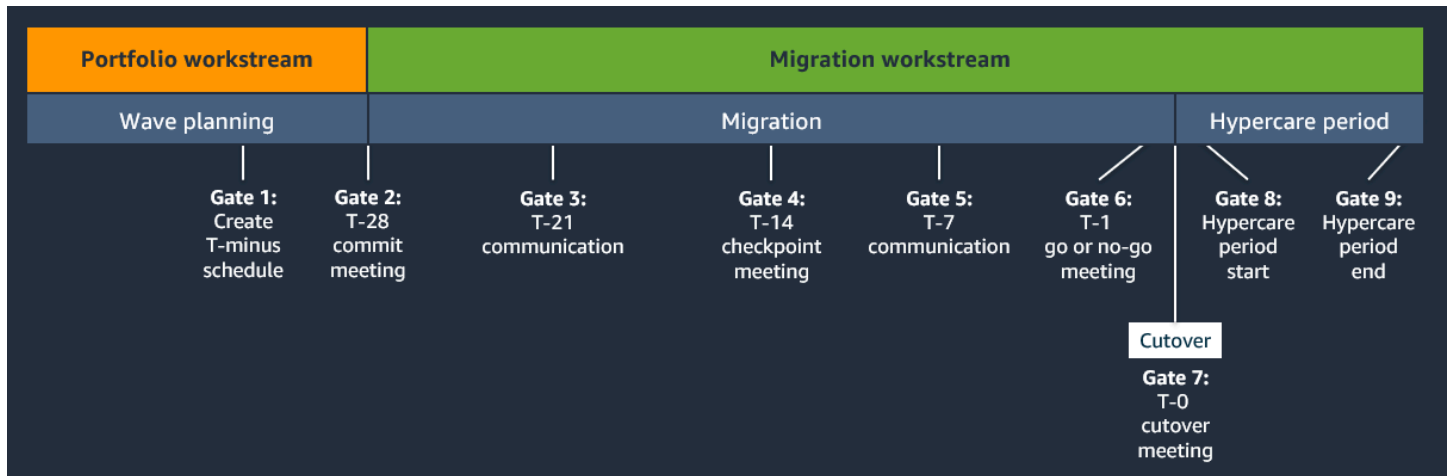
ステップ 1: 通信ゲートを定義する

移行中、すべてのワークロードを移行し、プロジェクトが完了するまで、各ウェーブまたはウェーブのグループに対して通信ゲートを繰り返します。少なくとも、次の通信ゲートをお勧めします。プロジェクトに応じて、プロジェクトにゲートを追加することもできます。

Gate	おおよそのタイムライン	目的	ゲート所有者	オーディエンス
ゲート 1: T マイナススケジュールを作成する	ウェーブプランが完了する前に	各ゲートのスケジュール日	プロジェクトマネージャーまたはコミュニケーションチーム	アプリケーション所有者、コミュニケーションリーダー、移行リーダー
ゲート 2: T-28 コミット会議	カットオーバーの 4 週間前	アプリケーション所有者とのウェーブの開始	プロジェクトマネージャーまたはコミュニケーションチーム	アプリケーション所有者、コミュニケーションリーダー、移行リーダー
ゲート 3: T-21 通信	カットオーバーの 3 週間前	カットオーバーは 21 日後に行われる予定であることのリマインダー	プロジェクトマネージャーまたはコミュニケーションチーム	アプリケーション所有者、コミュニケーションリーダー
ゲート 4: T-14 チェックポイント会議	カットオーバーの 2 週間前	スケジュールを確認し、準備タスクの進捗状況を評価する	プロジェクトマネージャーと移行リーダー	アプリケーション所有者、コミュニケーションリーダー、移行リーダー
ゲート 5: T-7 通信	カットオーバーの 1 週間前	カットオーバーは 7 日後に行われる予定であることのリマインダー	コミュニケーションチーム	アプリケーション所有者、運用チーム

Gate	おおよそのタイムライン	目的	ゲート所有者	オーディエンス
ゲート 6: T-1 go または no-go ミーティング	カットオーバーの 24 ~ 48 時間前	移行カットオーバーの準備状況を確認する	プロジェクトマネージャーまたはコミュニケーションチーム	クラウド運用チーム、アプリケーション所有者、インフラストラクチャチーム
ゲート 7: T-0 カットオーバー会議	カットオーバー日	アプリケーションのカットオーバーとテスト	プロジェクトマネージャーと移行リーダー	クラウド運用チーム
ゲート 8: ハイパーケア期間の開始	カットオーバーから 1 営業日後	カットオーバーが完了し、ハイパーケア期間が開始されたという通知	プロジェクトマネージャーまたはコミュニケーションチーム	アプリ所有者
ゲート 9: ハイパーケア期間の終了	カットオーバーから 4 営業日後	ハイパーケア期間が完了したことの通知	プロジェクトマネージャー、コミュニケーションチーム、またはクラウド運用チーム	ウェブのアプリケーション所有者、コミュニケーションリーダー、クラウド運用チーム

次の図は、ポートフォリオと移行ワークストリームにおけるこれらの通信ゲートのシーケンスを示しています。ゲート 1 はウェブプランニング中に、ゲート 2~6 は移行中に、ゲート 7 はカットオーバー会議、ゲート 8~9 はハイパーケア期間中に発生します。ゲート 2 ~ 6 は という形式で名前が付けられます。T-# は残り時間 T を参照し、# は予定されたカットオーバー日までの残り日数です。



大規模な移行プロジェクトの通信ゲートを次のように定義します。

- プロジェクトに追加の通信ゲートが必要かどうかを判断します。たとえば、プロジェクトに、アプリケーション所有者との移行準備の円滑化を担当するシングルスレッドリーダーがない場合は、今後のアクティビティと期日をアプリケーション所有者に知らせるための追加のコミュニケーションゲートを含めることができます。
- Jira や Confluence などの共有リポジトリまたはプロジェクト追跡アプリケーションで、大規模な移行プロジェクトの通信ゲートを記録します。ゲートごとに次の属性を必ず記録してください (例: [通信ゲートテーブル](#)を参照)。
 - ゲート番号と名前
 - ワークストリームのマイルストーンまたはカットオーバーに関連してゲートが発生するおよそのタイムライン
 - ゲートの目的
 - ゲート所有者と呼ばれる、ゲートを担当する個人またはチーム
 - 対象者と呼ばれる、コミュニケーションを受け取ったりゲート会議に参加したりする個人またはチーム
 - (オプション) ゲート所有者が使用する通信テンプレートまたはプレゼンテーションテンプレート

ステップ 2: T-minus スケジュールテンプレートを作成する

T マイナススケジュールは、ウェーブごとに完了する必要があるすべての高レベルの移行アクティビティを表す視覚的な方法です。ウェーブプランニングの終了からハイパーケア期間の終了までの期間をカバーします。高レベルの移行アクティビティは移行戦略によって異なるため、移行戦略ごとに

T-minus スケジュールテンプレートが必要です。T-minus スケジュールは、キックオフ会議と T-28 および T-14 コミット会議で共有します。

通常、カットオーバー日からさかのぼって T マイナススケジュールを構築します。アクティビティを移行マイルストーンに整理し、プロジェクト管理ツール内で詳細なタスクを個別に追跡します。T-minus スケジュールでは、で定義した通信ゲートも強調表示されます [ステップ 1: 通信ゲートを定義する](#)。

[プロジェクトガバナンスプレイブック](#)テンプレートで使用できる T-minus スケジュールテンプレート (Microsoft PowerPoint 形式) から始めることをお勧めします。以下の操作を実行します。

1. T-minus スケジュールテンプレートを開きます。このテンプレートには、リホスト移行戦略のデフォルトの T マイナススケジュールが含まれています。
2. ユースケースに基づいて、デフォルトのリホスト移行アクティビティを変更します。各移行戦略のアクティビティのリストについては、[AWS 大規模な移行の Foundation プレイブック](#)で作成した責任、説明責任、相談、情報 (RACI) マトリックスを参照してください。
3. で行った決定に基づいて、デフォルトの通信ゲートを変更します [ステップ 1: 通信ゲートを定義する](#)。
4. リホスト T マイナススケジュールを出発点として使用し、リプラットフォームやリファクタリングなど、移行戦略ごとに T マイナススケジュールを作成します。
5. T-minus スケジュールをコミュニケーションチーム、移行チーム、クラウド運用チームと共有します。すべてのチームが連携しており、調整の必要がないことを確認します。
6. 完成した T-minus スケジュールテンプレートをキックオフプレゼンテーションとウェブワークショッププレゼンテーションに追加します。

ステップ 3: ゲートごとに標準の E メールテンプレートを作成する

各通信ゲートでアプリケーション所有者に送信する E メール通信用のテンプレートを作成します。これらの E メールには、ウェブ内のアプリケーションに関する基本情報が含まれ、アプリケーション所有者にウェブステータスを伝え、今後の期日や会議について関係者に警告する必要があります。

[プロジェクトガバナンスプレイブックテンプレートに含まれている次のテンプレート](#)から始めることをお勧めします。

- T-28 の通信テンプレート (Microsoft Word 形式)
- T-21 の通信テンプレート (Microsoft Word 形式)

- T-14 の通信テンプレート (Microsoft Word 形式)
- T-7 の通信テンプレート (Microsoft Word 形式)
- T-1 の通信テンプレート (Microsoft Word 形式)
- T-0 の通信テンプレート (Microsoft Word 形式)
- カットオーバー完了のコミュニケーションテンプレート (Microsoft Word 形式)
- ハイパーケア完了のコミュニケーションテンプレート (Microsoft Word 形式)

タスク終了条件

このタスクは、以下を実行すると完了します。

- 大規模な移行プロジェクトの通信ゲートを定義しました。
- T-minus スケジュールテンプレートを作成しました。
- T-minus スケジュールテンプレートをプロジェクトのステークホルダーと共有しました。
- T-minus スケジュールテンプレートをキックオフプレゼンテーションとウェーブワークショッププレゼンテーションに統合しました。
- ゲート E メール通信用の標準テンプレートを作成しました。

タスク: プロジェクト管理プロセスとツールの定義

大規模な移行プロジェクトには、十分に確立された管理プロセスとツールが必要です。大規模な移行では、情報の共有、パフォーマンスメトリクスの追跡、正しい会議参加者の特定、所有者へのタスクの割り当てといったニュアンスがあります。このタスクでは、主要な移行タスクと所有者を文書化し、移行の主要な業績評価指標 (KPIs) を決定し、それらを測定し、予算を追跡し、リスクを管理し、決定を追跡するためのツールを開発する方法を決定します。

このタスクの多くのステップは、特に明記されていない限り、同時に実行されます。通常、キックオフミーティングの前または直後にこれらのステップを完了します。

このタスクでは、以下を実行します。

- [ステップ 1: プロジェクト管理ツールを選択する](#)
- [ステップ 2: すべての移行アクティビティの役割と責任を検証する](#)
- [ステップ 3: 利点追跡オフィスを設立する](#)
- [ステップ 4: プロジェクト概要ダッシュボードを作成する](#)

- [ステップ 5: 財務報告プロセスを作成する](#)
- [ステップ 6: リソースを管理およびスケーリングする方法を決定する](#)
- [ステップ 7: 決定ログを作成する](#)
- [ステップ 8: RAID ログを作成する](#)

ステップ 1: プロジェクト管理ツールを選択する

このステップでは、進行状況の追跡に使用するツールを確立します。Jira や Confluence などのソフトウェアソリューションを使用するか、Microsoft Excel で独自のダッシュボードを構築するか、これらのツールの組み合わせを使用するかを選択できます。プロジェクト管理ツールを選択または構築するときは、次のベストプラクティスを考慮してください。

- タスクの追跡と進行状況の追跡には、プロジェクト管理アプリケーションで一般的に利用できる Kanban ボードや Gantt チャートなどのビジュアル管理ツールをお勧めします。ビジュアル管理ツールは、現在のタスクとウェーブの進行状況を確認するための毎日のスタンドアップミーティングで特に効果的です。
- プロジェクト管理アプリケーションを選択する場合は、プロジェクト管理ツールに計画とプロセス (エスカレーション計画、決定ログ、RAID ログなど) を入力するかどうかを検討し、必要な機能があることを確認してください。
- プロジェクトスポンサー、エグゼクティブリーダー、プロジェクトマネージャー、外部のステークホルダー (存在する場合) が、選択したツールと連携することが重要です。

これらのツールの使用方法の詳細については、「」を参照してください [アジャイルアプローチの確立](#)。

ステップ 2: すべての移行アクティビティの役割と責任を検証する

[AWS 大規模な移行のための Foundation プレイブック](#)では、大規模な移行プロジェクトの移行戦略と高レベルタスクごとに詳細な RACI マトリックスを作成しました。RACI マトリックスは責任割り当てツールであり、名前はマトリックスで定義されている 4 つの責任タイプ、責任 (R)、責任 (A)、相談済み (C)、情報 (I) から算出されます。このマトリックス形式は、すべての移行アクティビティで役割と責任を調整するために推奨されます。このマトリックスは、オンサイトのチームをリモートチームや外部パートナーと連携させることができます。このステップでは、マトリックスが正しいことを確認し、プロジェクトチームで確認します。

組織の RACI タスクを調整するには、以下を検討することをお勧めします。

- 変更管理プロセス、それらのプロセスに必要なリードタイム、変更の承認に関連するロールを理解します。詳細については、「[ステップ 6: 変更管理プロセスを理解する](#)」を参照してください。
- 移行を開始する前に、バックアップとディザスタリカバリ戦略を検証し、この戦略を移行チームと共有してください。戦略のギャップを特定する場合は、や CloudEndure Disaster Recovery などの AWS Backup 統合クラウドサービスを使用することをお勧めします。

以下の操作を実行します。

1. まだ行っていない場合は、[AWS 大規模な移行に関する Foundation プレイブック](#)の指示に従って、高レベルタスクごとに RACI マトリックスを作成します。
2. 各マトリックスの各チームとマトリックスを確認します。すべての詳細なタスクが表示され、チームが各自の責任に精通していることを確認します。
3. 新しい移行戦略やサポートタスクを特定したら、移行全体で新しいマトリックスを更新して作成します。

ステップ 3: 利点追跡オフィスを設立する

このチームは、主要業績評価指標 (KPIs)。このチームは、移行がスケジュールに従って進行しているかどうかを評価し、進行を妨げる遅延や問題に対応できます。このチームは、毎週または隔週のプロジェクトステータスミーティングの外部で会議を行います。

各会議では、通常、このチームは以下の質問を確認して回答します。

- 移行の現在のステータスは何ですか？
- 目標を達成するための軌道に乗っていますか？
- パフォーマンスを正確に測定していますか？
- 移行を高速化するために調整が必要ですか？

メリット追跡オフィスが移行が望ましい速度に達していないと判断した場合、このチームはプロセス、リソース、またはコミュニケーション計画の調整を推奨する必要があります。

大規模な移行のための利点追跡オフィスを設立するには、以下を実行します。

1. 適切な参加者を特定します。このチームの一般的なメンバーには、プロジェクトスポンサー、プロジェクトマネージャー、移行リーダー、および対象範囲内のワークロードを持つ各ビジネスユニットの権限のある担当者が含まれます。

2. 利点追跡オフィスの定期的な会議の頻度を設定します。このチームは 2 週間に 1 回開催することをお勧めします。
3. プロジェクトスポンサーとの大規模な移行の定性的および量的 KPIs を定義し、経営幹部から情報を収集します。メリット追跡オフィスは、KPI に照らして移行の進行状況を評価します KPIs 。KPIs の例は次のとおりです。
 - (量的) 計画と比較した実際の移行サーバー数
 - (量的) 計画と比較して廃止されたサーバーの数
 - (定性) アンケートフィードバックとアクションプランのレビュー
 - (定性) アンケートのフィードバックに応じて行われる是正措置

ステップ 4: プロジェクト概要ダッシュボードを作成する

プロジェクトチームは、主要なプロジェクト関係者と協力して、移行の進行状況を明確に伝えるダッシュボードを作成する必要があります。プロジェクト概要ダッシュボードは、1 ページで以下を実行する必要があります。

- プロジェクト全体の完了したワークロードと残りのワークロードを定量化します
- 最後に完了したウェーブ (計画と実績) のパフォーマンスを反映します。
- 今後のウェーブで予想されるワークロードを表示する (予定)

プロジェクト [ガバナンスプレイブック](#) テンプレートで利用できるプロジェクト概要ダッシュボードテンプレート (Microsoft PowerPoint 形式) から始めることをお勧めします。以下の操作を実行します。

1. プロジェクトに必要なテンプレートを変更します。各移行戦略へのサーバーの割り当てを表すことをお勧めします。提供されているテンプレートには、リホストとリプラットフォームの移行戦略が含まれています。
2. 経営幹部を含むプロジェクトステークホルダーとプロジェクト概要ダッシュボードを確認し、すべてのステークホルダーが連携し、ダッシュボードの使用方法和アクセス方法を理解していることを確認します。
3. ダッシュボードを共有リポジトリに保存します。すべての利害関係者は、必要に応じてこの情報に自身でアクセスできる必要があります。

ステップ 5: 財務報告プロセスを作成する

通常、より限られた対象者に提供する必要があるため、プロジェクトステータスレポートとは別に財務レポートを追跡します。財務レポートには、現在までに発生したコストである実際のコストと、プロジェクトの残りの予想コストである予測コストを含める必要があります。内部リソースコストと外部リソースコストを個別に追跡します。実際の内部リソースコストと予測される内部リソースコストを評価するには、社内時間レポートとリソースプランを使用できます。外部リソースについては、パートナーまたはコンサルタントに実際のコストと予測コストの提供を依頼する必要があります。

[プロジェクトガバナンスプレイブック](#)テンプレートで利用できる Financial glide path テンプレート (Microsoft PowerPoint 形式) から始めることをお勧めします。以下の操作を実行します。

1. この財務レポートを受け取るステークホルダーを決定します。
2. この財務報告書を会議で共有するか、Eメールで共有するかを決定します。
3. プロジェクトに必要なテンプレートを変更します。
4. 経営幹部チームまたはプロジェクトスポンサーと財務報告書を確認し、形式と内容の整合性を確認します。
5. ステークホルダーとともに、このレポートを更新してレビューする頻度を決定します。
6. この財務レポートの保存先を決定します。機密性の高い財務情報が含まれているため、このテンプレートを共有リポジトリにプロジェクトドキュメントの残りの部分とともに保存することはお勧めしません。

ステップ 6: リソースを管理およびスケーリングする方法を決定する

プロジェクトの進行に合わせてリソースを効果的に管理することは、大規模な移行作業に不可欠です。プロジェクトが初期化段階から実装段階に移行するにつれて、移行チームは移行ウェーブをサポートするためにスケールアップする必要があります。同時に、残りの検出アクティビティによっては、検出チームがスケールダウンを開始できる場合があります。このステップでは、効率を高めるためにリソース管理とスケーリング計画をマッピングします。通常、このステップはプロジェクトマネージャーとワークストリームリードによって実行されます。計画が定義されたら、プロジェクト全体で継続的に監査し、計画内のすべてのリソースが必要かどうかを判断します。例えば、移行パイプラインの構築の遅延やlarger-than-anticipatedウェーブは、リソースプランに影響する可能性があります。

リソースプランは大規模な移行ごとに異なり、通常はプロジェクト固有の要因によって決まります。一般的な要因には、プロジェクト予算、プロジェクトチームの編成方法、検出アクティビティの完

了速度、ポートフォリオを各移行戦略に分散する方法 (リファクタリング、リホスト、リプラットフォームなど)、組織内の変更管理プロセスに必要な時間などがあります。

リソースを計画するときは、ポートフォリオの移行戦略と、それらが移行チームとポートフォリオチームにどのように影響するかを考慮してください。例えば、リホストは複雑さが低いため、大規模な移行の一般的な戦略です。ほとんどの大規模な移行プロジェクトには、4~5人のリホスト移行ポッドが少なくとも1つあります。リプラットフォームやリファクタリングなど、複雑な移行戦略を含める場合は、これらの戦略の移行チームポッドを作成し、リソースプランに追加の移行チームとポートフォリオチームのリソースを含める必要があります。ワークストリーム、チーム構造、各ポッドに必要な人数の詳細については、「大規模な移行のための Foundation プレイブック」の「[チームの組織と構成](#)」を参照してください。 AWS

さらに、SAP などの特殊なワークロードが存在する場合は、それらのワークロードの経験を持つ個別の専門の個人チームも必要です。特殊なワークロードの詳細については、[AWS Migration Acceleration Program](#) の「MAP specialized workloads」を参照してください。

以下の操作を実行します。

1. プロジェクトガバナンスをサポートするために必要なリソースを定義します。一般的なリソースには、デリバリーガバナンスと監視のためのプログラムマネージャー、プロジェクトマネージャー、サポートプロジェクトマネージャーが含まれます。
2. 移行ツールをサポートするために必要なリソースを定義します。一般的なリソースには、クラウドアーキテクトや外部コンサルタントが含まれます。
3. プロジェクトに ERP システムなどの特殊なワークロードの移行が含まれている場合は、そのワークロードをサポートするために必要なリソースを定義します。特殊なワークロードの一般的なリソースは次のとおりです。
 - プロジェクトマネージャー
 - アーキテクチャリード
 - アーキテクチャエンジニア
 - DevOps エンジニア
 - 以下を含む特殊な移行ポッド:
 - 機能分野のエキスパート (SME)
 - テストスペシャリスト
4. リホストなど、各移行戦略をサポートするために必要なリソースを定義します。一般的なリソースは次のとおりです。
 - プロジェクトリーダー

- コンピューティング、ストレージ、ネットワーキングのアーキテクトとエンジニア
 - テストスペシャリスト
5. 検出、初期化、実装など、プロジェクトのさまざまな段階でこれらのチームをサポートするために必要なリソースの数を割り当てます。プロセスを改善しながら移行の加速を検討し、ステージやプロジェクトの終了時にリソースをスケールダウンする方法を検討してください。

ステップ 7: 決定ログを作成する

大規模な移行を通じて、リードは発生した問題を解決するための意思決定を行います。大規模な移行プロジェクトのサイズと範囲のため、すべての決定が行われるときにプロジェクトマネージャーが存在することはできません。ワークストリームリードは、ワークストリームに影響する決定を記録する責任があります。プロジェクトマネージャーは、決定事項を確認し、プロジェクトステータスレビュー会議で最近の決定事項を提示する責任があります。

通常、このステップはプロジェクトマネージャーによって実行されます。このステップでは、共有リポジトリに決定ログを作成し、ワークストリームリードが決定のログ記録に関する各自の責任を理解していることを確認します。必要に応じて、エスカレーション計画を使用してタイムリーな意思決定を容易にします。詳細については、「[ステップ 2: エスカレーション計画を確立する](#)」を参照してください。すべてのチームメンバーが、各レベルで実行できる意思決定のタイプを理解していることを確認します。

以下の操作を実行します。

1. 決定ログを作成します。Jira や Confluence などの専用のプロジェクト管理ツールを使用することも、Microsoft Excel でリストを作成することもできます。以下を文書化することをお勧めします。
 - 決定の簡単な説明
 - ステータス
 - 決定がプロジェクトに与える影響
 - 考慮される代替オプション
 - 決定者
 - 決定が行われた日付
2. ワークストリームリードと会議を行い、決定ログを確認し、その使用方法をトレーニングします。決定を記録する文化を確立することが重要です。

3. 決定ログを共有リポジトリに保存し、すべてのワークストリームリードがそれにアクセスできることを確認します。
4. 各プロジェクトステータスレビュー会議の前に、前回の会議以降に行われた決定についてログを確認し、これらの決定をプロジェクトステータスレポートプレゼンテーションに含めます。これにより、プロジェクトの過程で行われたすべての決定に対するプロジェクトレベルの透明性が確保されます。

ステップ 8: RAID ログを作成する

決定ログと同様に、リスク、アクション、問題、依存関係 (RAID) ログと呼ばれるプロジェクト管理ツールでリスクと問題を追跡する必要があります。大規模な移行をどれだけ徹底的に計画しても、問題が発生し、プロジェクトにいくつかのリスクを特定します。リスクと問題を特定して記録することで、プロジェクトに透明性を提供し、潜在的な問題を制御およびモニタリングするプロセスを確立し、プロジェクトへの影響を最小限に抑えます。

以下の操作を実行します。

1. RAID ログを作成します。Jira や Confluence などの専用のプロジェクト管理ツールを使用することも、Microsoft Excel でリストを作成することもできます。以下を文書化することをお勧めします。
 - タイプ (リスク、アクション、問題、または依存関係)
 - 項目の簡単な説明
 - オープン日
 - 確率:
 - Impact
 - 重要度スコア。確率と影響を乗算して計算されます。
 - 所有者
2. ワークストリームリードと会議を行い、RAID ログを確認し、その使用方法をトレーニングします。リスクと問題を記録する文化を確立することが重要です。
3. RAID ログを共有リポジトリに保存し、すべてのワークストリームリードがアクセスできることを確認します。
4. 各プロジェクトステータスレビュー会議の前に、前回の会議以降に特定されたリスクと問題についてログを確認し、プロジェクトステータスレポートのプレゼンテーションに含めます。これにより、すべてのリスクと問題のプロジェクトレベルの透明性が確保されます。

タスク終了条件

このタスクは、以下を実行すると完了します。

- Jira、Confluence、Microsoft Excel のダッシュボードやリストなど、1 つ以上のプロジェクト管理ツールを選択しました。
- 大規模な移行プロジェクトの各移行戦略 (リホストなど) と各高レベルのタスクについて、詳細な RACI マトリックスを作成して検証しました。
- 利点追跡オフィスを作成し、会議の定期的な頻度を設定し、会議の所有権とレポートテンプレートを作成しました。
- 内部ステークホルダーは、財務報告の処理方法について調整されています。財務レポートを確認する正式な頻度を確立し、受信者を特定し、誰が財務レポートにアクセスできるかを決定しました。
- プロジェクトのリソースプランを作成しました。
- 共有リポジトリに決定ログを確立し、すべてのチームリーダーが更新を行うことができます。
- RAID ログの場所とテンプレートを定義しました。ログを維持し、問題に優先順位を付けるプロセスを確立しました。RAID ログの Week-to-week の変更は、ステータスレポートにまとめられています。
- すべてのプロジェクト関係者は、プロジェクト概要ダッシュボードで高レベルのプロジェクトステータスをどのように伝達するかについて調整されています。

ステージ 2: 大規模な移行の実装

前のステージでは、移行を管理するために必要なすべてのツール、テンプレート、計画、プロセスを確立しました。この段階では、これらのアセットを使用して、移行を効果的に管理および監督します。このステージは、移行チームがウェブのへの移行を開始したときに開始されます AWS クラウド。このステージのゲートは、各ウェブまたはシーケンシャルウェブのグループに対して繰り返します。

ステージ 2 は、次のタスクで構成されます。

- [タスク: ステージ 2 の定期的な会議をスケジュールする](#)
- [タスク: 通信ゲートの完了](#)
 - [ゲート 1: ウェブの T マイナススケジュールを作成する](#)
 - [ゲート 2: T-28 コミット会議](#)
 - [ゲート 3: T-21 通信](#)
 - [ゲート 4: T-14 チェックポイント会議](#)
 - [ゲート 5: T-7 通信](#)
 - [ゲート 6: T-1 go または no-go ミーティング](#)
 - [ゲート 7: T-0 カットオーバー会議](#)
 - [ゲート 8: ハイパーケア期間の開始](#)
 - [ゲート 9: ハイパーケア期間の終了](#)

タスク: ステージ 2 の定期的な会議をスケジュールする

で作成した会議計画に従って[ステップ 3: 会議とその頻度を定義する](#)、会議所有者は次の定期的な会議をスケジュールする必要があります。これらの会議は、最初の T-28 コミット会議の後のステージ 2 の開始時に開始され、移行が完了するまで続行されます。 T-28

- 移行営業時間
- メリット追跡オフィス会議

⚠ Important

で設定した定期的な会議を引き続き開催します [ステップ 5: ステージ 1 の定期的な会議をスケジュールする](#)。これらの会議は、プロジェクトの最後まで続きます。

タスク: 通信ゲートの完了

このタスクでは、で定義した通信ゲートと T-minus スケジュールを使用して [タスク: 通信ゲートとスケジュールの定義](#)、移行ワークストリームとポートフォリオワークストリームを通過する各ウェーブのステータスを伝達します。

これらのゲートを個別に移動したり、複数のウェーブが同じスケジュールにある場合は、グループ内のゲートを移動したりできます。移行ワークストリームでは波が重複するため、移行のどの時点でも、異なるゲートに複数の波または波のグループがあるのが一般的です。次の表は、移行ワークストリームでウェーブがどのように重複し、各ウェーブが 1 週間間隔でスケジュールされているかを示しています。この例では、移行ワークストリームでいつでも 6~7 個のウェーブがアクティブであり、各ウェーブは異なるゲートにあります。

Gate	ウェーブ 1	ウェーブ 2	ウェーブ 3	ウェーブ 4	ウェーブ 5
ゲート 1: T マイナススケジュール	3 月 13 日	3 月 20 日	3 月 27 日	4 月 3 日	4 月 10 日
ゲート 2: T-28 会議	3 月 20 日	3 月 27 日	4 月 3 日	4 月 10 日	4 月 17 日
ゲート 3: T-21 通信	3 月 27 日	4 月 3 日	4 月 10 日	4 月 17 日	4 月 24 日
ゲート 4: T-14 ミーティング	4 月 3 日	4 月 10 日	4 月 17 日	4 月 24 日	5 月 1 日
ゲート 5: T-7 通信	4 月 10 日	4 月 17 日	4 月 24 日	5 月 1 日	5 月 8 日

Gate	ウェーブ 1	ウェーブ 2	ウェーブ 3	ウェーブ 4	ウェーブ 5
ゲート 6: T-1 go または no-go ミーティング	4 月 16 日	4 月 23 日	4 月 30 日	5 月 7 日	5 月 14 日
ゲート 7: カットオーバー会議	4 月 17 日	4 月 24 日	5 月 1 日	5 月 8 日	5 月 15 日
ゲート 8: ハイパーケア期間の開始	4 月 18 日	4 月 25 日	5 月 2 日	5 月 9 日	5 月 16 日
ゲート 9: ハイパーケア期間の終了	4 月 22 日	4 月 29 日	5 月 6 日	5 月 13 日	5 月 20 日

このタスクは、次の通信ゲートで構成されます。

- [ゲート 1: ウェーブの T マイナススケジュールを作成する](#)
- [ゲート 2: T-28 コミット会議](#)
- [ゲート 3: T-21 通信](#)
- [ゲート 4: T-14 チェックポイント会議](#)
- [ゲート 5: T-7 通信](#)
- [ゲート 6: T-1 go または no-go ミーティング](#)
- [ゲート 7: T-0 カットオーバー会議](#)
- [ゲート 8: ハイパーケア期間の開始](#)
- [ゲート 9: ハイパーケア期間の終了](#)

ゲート 1: ウェーブの T マイナススケジュールを作成する

この通信ゲートで次の操作を行います。

1. このウェーブのドキュメントを保存する単一の共有リポジトリを作成します。

2. で作成した T-minus スケジュールテンプレートを使用して[ステップ 2: T-minus スケジュールテンプレートを作成する](#)、このウェーブに固有の日付を入力し、T-minus スケジュールを共有リポジトリに保存します。
3. [AWS 大規模な移行用の移行プレイブックで作成した移行タスクリストのコピー](#)を作成し、共有リポジトリに保存します。このタスクリストは、ゲートを進める際にチェックリストとして使用します。
4. 適切な参加者と T-28 コミット会議をスケジュールします。この会議の詳細については、「」を参照してください[ステップ 3: 会議とその頻度を定義する](#)。

ゲート終了条件

次のプロジェクトガバナンスアクティビティが完了したら、次のゲートに進みます。

- ウェーブの共有リポジトリを確立しました。
- ウェーブの T マイナススケジュールを作成しました。
- ウェーブの移行タスクリストを作成しました。
- T-28 コミット会議をスケジュールしました。

次の移行アクティビティと、移行ランブックで定義されているその他のタスクが完了したら、次のゲートに進みます。

- ポートフォリオチームがウェーブプランを完了しました。
- ポートフォリオチームがウェーブの移行メタデータを収集しました。

ゲート 2: T-28 コミット会議

このゲートでは、移行チームがアプリケーション所有者とウェーブプランを確認し、ウェーブプランとカットオーバー日へのコミットをアプリケーション所有者に依頼します。この通信ゲートで次の操作を行います。

1. で作成したウェーブワークショッププレゼンテーションを使用して[ステップ 4: 会議プレゼンテーションを準備する](#)、ウェーブ用にこのプレゼンテーションをカスタマイズし、そのプレゼンテーションを共有リポジトリに保存します。このプレゼンテーションは、このゲートとで使用します[ゲート 4: T-14 チェックポイント会議](#)。
2. T-28 コミット会議を実施し、プレゼンテーションを使用して以下を確認します。

- ウェーブプランと移行プロセスの概要を説明します。
 - アプリケーション所有者の今後のアクション項目の詳細を提供します。
 - アプリケーション所有者がこのウェブの各アプリケーションを移行する準備ができていることを確認します。
 - アプリケーション所有者が、アプリケーションのテストプランを提供する必要があることを理解していることを確認します。テストプランでは、カットオーバーが成功したことを検証する方法について説明します。テストはカットオーバーの直後に行われるため、問題が発生した場合、移行チームはビジネスユーザーやアプリケーションユーザーへの影響を最小限に抑えながらアプリケーションを元の環境にロールバックできます。
 - ステークホルダーが波全体でどのように協力し、コミュニケーションを取ることが期待されているかを確認します。利害関係者がこのウェブに関連するドキュメントを見つけることができる共有リポジトリの場所を指定します。
 - で作成したエスカレーション計画を確認します [ステップ 2: エスカレーション計画を確立する](#)。
 - 質問と回答の機会を提供します。
3. T-28 コミットミーティングの後、 で作成した T-28 通信 E メールを送信します [ステップ 3: ゲートごとに標準の E メールテンプレートを作成する](#)。ウェブ情報と受信者の E メールをカスタマイズし、このウェブにすべてのアプリケーションとサーバーを追加します。
4. T-28 コミットミーティングの後、適切な参加者と次のミーティングをスケジュールします。
- T-14 チェックポイント会議
 - T-1 go または no-go 会議
 - T-0 カットオーバー会議

ゲート終了条件

次のプロジェクトガバナンスアクティビティが完了したら、次のゲートに進みます。

- T-28 コミット会議を実施しました。
- ウェーブドキュメントにアクセスするために、共有リポジトリについてすべての主要な利害関係者に通知し、すべての利害関係者がアクセスできます。
- に従って、移行営業時間の保持を開始しました [タスク: ステージ 2 の定期的な会議をスケジュールする](#)。
- アプリケーション所有者は、ウェブプラン内のアプリケーションを移行できることを確認しました。

- すべての利害関係者はコミュニケーションアプローチを理解し、どの会議に出席する必要があるかを理解しています。
- アプリケーション所有者は、担当する特定のアクション項目を理解します。
- T-28 通信 E メールをすべての利害関係者に送信しました。
- すべての利害関係者がアクセスできるように、会議のプレゼンテーションと会議メモを共有リポジトリに保存しました。
- T-14 コミット会議をスケジュールしました。
- T-1 go または no-go 会議をスケジュールしました。
- T-0 カットオーバー会議をスケジュールしました。

次の移行アクティビティと、移行ランブックで定義されているその他のタスクが完了したら、次のゲートに進みます。

- T-28 コミット会議中に行われた変更でウェブプランを更新しました。
- ウェブ内のアプリケーションとサーバーの変更リクエスト (RFC) が送信され、変更ウィンドウがスケジュールされます。
- 変更管理プロセスを理解して特定します。
- 転送、ルーティング、プロキシサービスなどの新しいインフラストラクチャ要件について RFCs を送信しました。
- 移行タスクリストを更新しました。

ゲート 3: T-21 通信

コミュニケーションチームは、アプリケーション所有者およびビジネスユニットの担当者との連絡を継続します。これらの利害関係者は、質問の機会を提供するために、移行営業時間に招待されます。

1. で作成した T-21 通信 E メールを送信します [ステップ 3: ゲートごとに標準の E メールテンプレートを作成する](#)。ウェブ情報と受信者の E メールをカスタマイズし、このウェブにすべてのアプリケーションとサーバーを追加します。
2. 正しいアプリケーション所有者とスケジュールされた T-14 チェックポイント会議を更新します。必要な参加者が出席できない場合は、エスカレーション計画に従って代替担当者が出席できることを確認します。

ゲート終了条件

次のプロジェクトガバナンスアクティビティが完了したら、次のゲートに進みます。

- T-21 通信 E メールをすべての利害関係者に送信しました。

次の移行アクティビティと、移行ランブックで定義されているその他のタスクが完了したら、次のゲートに進みます。

- ソースサーバーがレプリケーションの最小要件を満たしていることを確認します。
- ウェーブでアプリケーションとサーバーのレプリケーションを開始しました。
- 移行タスクリストを更新しました。

ゲート 4: T-14 チェックポイント会議

このゲートでは、アプリケーション所有者との T-14 チェックポイントミーティングを実施し、チームがスケジュールどおりにカットオーバーする予定があるかどうかを評価します。この通信ゲートで次の操作を行います。

1. で準備したウェブワークショップのプレゼンテーションを使用して[ゲート 2: T-28 コミット会議](#)、T-14 チェックポイント会議のプレゼンテーションを更新します。
2. T-14 チェックポイントミーティングを実施し、以下を確認します。
 - このウェブで移行されるアプリケーションとサーバーを確認します。
 - 残りのタスクとスケジュールを確認して、参加者がプロセスの残りのステップを理解していることを確認します。
 - すべてのアプリケーション所有者 (またはその代理人) がカットオーバー会議に参加できることを確認します。
 - カットオーバーが完了したら、テストプランの準備が整っていることを確認します。
3. T-14 チェックポイント会議後、 で作成した T-14 通信 E メールを送信します[ステップ 3: ゲートごとに標準の E メールテンプレートを作成する](#)。ウェブ情報と受信者の E メールをカスタマイズし、このウェブにすべてのアプリケーションとサーバーを追加します。
4. T-1 go または no-go 会議と T-0 カットオーバー会議への招待を更新し、アプリケーション所有者が指定した代替担当者など、参加者に変更を加えます。
5. 移行タスクリストを更新します。

ゲート終了条件

次のプロジェクトガバナンスアクティビティが完了したら、次のゲートに進みます。

- T-14 チェックポイント会議を実施しました。すべてのアプリケーション所有者または指定された担当者が参加しました。アプリケーション所有者が出席せず、応答しない場合は、エスカレーション計画に従って出席不足をエスカレーションします。
- その週の移行営業時間を設定しました。
- T-14 通信 E メールをすべての利害関係者に送信しました。
- すべての利害関係者がアクセスできるように、会議のプレゼンテーションと会議メモを共有リポジトリに保存しました。
- 移行前、移行、移行後のすべてのタスクのチェックリストを作成し、完了したタスクをすべて閉じ、チェックリストを共有リポジトリに保存しました。

次の移行アクティビティと、移行ランブックで定義されているその他のタスクが完了したら、次のゲートに進みます。

- レプリケートされたアプリケーションとサーバーの状態とステータスを検証しました。問題のトラブルシューティング中であるか、トラブルシューティングを完了している。
- アプリケーション所有者は、移行チームにテストプランを提供しています。
- 移行タスクリストを更新しました。

ゲート 5: T-7 通信

このゲートでは、コミュニケーションチームはアプリケーション所有者やビジネスユニットの担当者との連絡を継続します。また、カットオーバーアクティビティと会議の準備も行います。

1. で作成した T-7 通信 E メールを送信します [ステップ 3: ゲートごとに標準の E メールテンプレートを作成する](#)。ウェブ情報と受信者の E メールをカスタマイズし、このウェブにすべてのアプリケーションとサーバーを追加します。
2. 必要な参加者が T-1 go または no-go 会議と T-0 カットオーバー会議に参加できることを確認します。必要に応じて会議の招待を更新し、代替代理人を含めます。

ゲート終了条件

次のプロジェクトガバナンスアクティビティが完了したら、次のゲートに進みます。

- T-7 通信 E メールをすべての利害関係者に送信しました。
- T-1 go または no-go 会議と T-0 カットオーバー会議への出席が確認されました。すべての参加者が会議を承諾したか、代替代理人が特定されました。

次の移行アクティビティと、移行ランブックで定義されているその他のタスクが完了したら、次のゲートに進みます。

- このウェーブの変更リクエストはすべて承認されました。
- ターゲットインフラストラクチャがカットオーバーの準備が整っていることを検証しました。
- インフラストラクチャを検証するために作成したテストインスタンスをシャットダウンしました。
- カットオーバータスクリストを検証しました。
- 移行タスクリストを更新しました。

ゲート 6: T-1 go または no-go ミーティング

このゲートでは、RACI マトリックスのすべてのチームメンバーと移行前アクティビティのチェックリストを確認して、ウェーブ内のアプリケーションとサーバーがカットオーバーの準備ができていることを確認します。このゲートは、スケジュールされたカットオーバーの 24~48 時間前に発生します。

1. T-1 go または no-go ミーティングで、RACI マトリックスのすべてのチームメンバーとチェックリストを確認して、ウェーブ内のアプリケーションとサーバーがカットオーバーの準備が整っていることを確認します。
2. 必要なすべての参加者が T-0 カットオーバー会議に参加できることを確認します。
3. ウェーブの移行 (go) を続行する場合は、 で作成した T-1 通信 E メールを送信します [ステップ 3: ゲートごとに標準の E メールテンプレートを作成する](#)。ウェーブ情報と受信者の E メールをカスタマイズし、このウェーブにすべてのアプリケーションとサーバーを追加します。
4. ウェーブまたは特定のアプリケーションやサーバー (no-go) の移行を続行しない場合は、すべての利害関係者に決定を通知する E メールを送信し、次のステップやスケジュールの変更に関する利用可能な情報を提供します。

ゲート終了条件

次のプロジェクトガバナンスアクティビティが完了したら、次のゲートに進みます。

- T-0 カットオーバー会議でリソースが利用可能であり、必要なすべての参加者が参加できることを確認しました。
- すべての利害関係者がアクセスできるように、会議のプレゼンテーションと会議メモを共有リポジトリに保存しました。
- T-1 通信 E メールをすべての利害関係者に送信しました。

次の移行アクティビティと、移行ランブックで定義されているその他のタスクが完了したら、次のゲートに進みます。

- 移行タスクリストで、すべての移行タスクが完了したことを確認しました。

ゲート 7: T-0 カットオーバー会議

このゲートでは、カットオーバー会議中にウェブ内のすべてのサーバーとアプリケーションを移行し、すぐにアプリケーション所有者が移行したアプリケーションをテストして、期待どおりに動作していることを確認します。アプリケーション所有者は、会議全体に参加するか、アプリケーションに必要な場合にのみ参加できます。

1. カットオーバー会議の前に、で作成した T-0 通信 E メールを送信します [ステップ 3: ゲートごとに標準の E メールテンプレートを作成する](#)。ウェブ情報と受信者の E メールをカスタマイズし、このウェブにすべてのアプリケーションとサーバーを追加します。
2. T-0 カットオーバーミーティングでは、[AWS 大規模な移行の移行プレイブックの指示に従って開発した移行ランブックの指示に従って、ウェブ内のサーバーとアプリケーションを移行します](#)。
3. アプリケーションまたはサーバーが移行されたら、アプリケーション所有者が作成したテストプランを使用して、アプリケーションが次のように機能していることを確認します。
 - アプリケーションまたはサーバーが想定どおりに機能している場合、または軽微な問題しかない場合は、AWS 環境内に残して問題を修正します。
 - アプリケーションまたはサーバーが機能していない場合、または重大な問題がある場合は、ロールバックします。
4. 移行タスクリストのカットオーバーアクティビティを完了したら、タスクリストを更新します。
5. で作成したカットオーバー完了通信 E メールを送信します [ステップ 3: ゲートごとに標準の E メールテンプレートを作成する](#)。ウェブ情報と受信者の E メールをカスタマイズし、このウェブにすべてのアプリケーションとサーバーを追加します。

ゲート終了条件

次のプロジェクトガバナンスアクティビティが完了したら、次のゲートに進みます。

- ウェブ内のすべてのアプリケーションまたはサーバーが正常に移行されたことを検証したか、ロールバックしました。
- ロールバックしたアプリケーションまたはサーバーを書き留めました。これらのアプリケーションまたはサーバーでは、移行パターンを更新するか、ターゲット状態を再定義して、カットオーバー中に発生した問題に対処する必要があります。これらのアプリケーションまたはサーバーは、将来のウェブプランに含めます。
- カットオーバー完了のコミュニケーション E メールをすべての利害関係者に送信しました。

次のカットオーバーアクティビティが完了したら、次のゲートに進みます。

- 移行タスクリストの「カットオーバータスク」セクションのすべてのステップを完了しました。

ゲート 8: ハイパーケア期間の開始

このゲートでは、次の操作を行います。

1. プロジェクトの関係者に、クラウド内の移行されたアプリケーションとサーバーを確認するよう依頼します。問題が特定された場合は、移行チームに送信する必要があります。
2. カットオーバー中またはハイパーケア期間中に特定された問題に対処します。
3. クラウド運用チームがワークロードを受け入れる準備ができていることを確認します。
4. すべてのプロジェクト管理ツールとリポジトリを更新して、ウェブのステータスを反映します。

ゲート終了条件

次のプロジェクトガバナンスアクティビティが完了したら、次のゲートに進みます。

- すべての利害関係者は、移行されたアプリケーションとサーバーを確認しました。
- 移行チームは、カットオーバー中またはハイパーケア期間中に特定されたアプリケーションまたはサーバーの問題に対処しました。
- クラウド運用チームは、移行されたアプリケーションとサーバーを受け入れる準備ができていることを確認しました。

- ウェーブステータスを反映するために、すべてのプロジェクト管理ツールとリポジトリを更新しました。

ゲート 9: ハイパーケア期間の終了

ハイパーケア期間は通常 1~4 日間続き、移行チームが移行されたアプリケーションまたはサーバーに関する問題を解決すると終了します。ハイパーケア期間の終了時に、移行チームはクラウド運用 (Cloud Ops) チームと協力して、移行されたアプリケーションとサーバーを確認します。このゲートでは、移行チームは移行されたワークロードの継続的なサポートを Cloud Ops チームに転送します。Cloud Ops チームは、ハイパーケア期間が完了したこと、および問題が発生した場合の連絡窓口になったことをアプリケーション所有者に通知します。必要に応じて、このコミュニケーションにアンケートを含め、アプリケーション所有者を招待して、移行とカットオーバーのプロセスに関するフィードバックを提供できます。

1. 移行したアプリケーションとサーバーをクラウド運用チームの設定管理データベース (CMDB) に組み込みます。
2. ServiceNow などの Cloud Ops 技術管理サポートツールにアプリケーション情報を組み込みます。
3. 各ゲート [ステップ 3: ゲートごとに標準の E メールテンプレートを作成する](#) 用に作成したハイパーケア完全通信 E メールを送信します。ウェブ情報の E メールをカスタマイズし、クラウド運用チームに連絡する方法の手順を含めます。
4. 移行をインフラストラクチャサポートチームに通知し、ソースサーバーとサポートインフラストラクチャの廃止プロセスを開始します。通常、このステップは Cloud Ops チームまたはプロジェクトマネージャーによって実行されます。

ゲート終了条件

このゲートは、次のプロジェクトガバナンスアクティビティを実行すると完了します。

- Cloud Ops は、すべてのワークロード関連情報を CMDB に組み込みました。
- Cloud Ops は、すべてのアプリケーション情報を技術管理サポートツールに組み込みました。
- ハイパーケアの完全なコミュニケーション E メールをすべての利害関係者に送信しました。
- インフラストラクチャチームは、不要になったサポートインフラストラクチャの廃止を開始しました。

リソース

AWS 大規模な移行

大規模な移行に関する AWS 完全な 規範ガイドシリーズにアクセスするには、[「への大規模な移行 AWS クラウド」](#)を参照してください。

その他のリファレンス

- [準備フェーズ](#) (AWS 規範ガイド)

寄稿者

このドキュメントの寄稿者は次のとおりです。

- Pratik Chunawala、プリンシパルクラウドアーキテクト
- Bill David、Principal Customer Solutions Manager
- Wally Lu、プリンシパルコンサルタント
- Amit Rudraraju、シニアクラウドアーキテクト

ドキュメント履歴

以下の表は、本ガイドの重要な変更点について説明したものです。今後の更新に関する通知を受け取る場合は、[RSS フィード](#) をサブスクライブできます。

変更	説明	日付
初版発行	—	2022 年 2 月 28 日

AWS 規範ガイドの用語集

以下は、AWS 規範ガイドによって提供される戦略、ガイド、パターンで一般的に使用される用語です。エントリを提案するには、用語集の最後のフィードバックの提供リンクを使用します。

数字

7 Rs

アプリケーションをクラウドに移行するための 7 つの一般的な移行戦略。これらの戦略は、ガートナーが 2011 年に特定した 5 Rs に基づいて構築され、以下で構成されています。

- リファクタリング/アーキテクチャの再設計 — クラウドネイティブ特徴を最大限に活用して、俊敏性、パフォーマンス、スケーラビリティを向上させ、アプリケーションを移動させ、アーキテクチャを変更します。これには、通常、オペレーティングシステムとデータベースの移植が含まれます。例: オンプレミスの Oracle データベースを Amazon Aurora PostgreSQL 互換エディションに移行する。
- リプラットフォーム (リフトアンドリシェイプ) — アプリケーションをクラウドに移行し、クラウド機能を活用するための最適化レベルを導入します。例: お客様のオンプレミスの Oracle データベースを AWS クラウドの Oracle 用の Amazon Relational Database Service (Amazon RDS) に移行する。
- 再購入 (ドロップアンドショップ) — 通常、従来のライセンスから SaaS モデルに移行して、別の製品に切り替えます。例: 顧客関係管理 (CRM) システムを Salesforce.com に移行する。
- リホスト (リフトアンドシフト) — クラウド機能を活用するための変更を加えずに、アプリケーションをクラウドに移行します。例: お客様のオンプレミスの Oracle データベースを AWS クラウドの EC2 インスタンス上の Oracle に移行する。
- 再配置 (ハイパーバイザーレベルのリフトアンドシフト) — 新しいハードウェアを購入したり、アプリケーションを書き換えたり、既存の運用を変更したりすることなく、インフラストラクチャをクラウドに移行できます。オンプレミスプラットフォームから同じプラットフォームのクラウドサービスにサーバーを移行します。例: Microsoft Hyper-V アプリケーションをに移行します AWS。
- 保持 (再アクセス) — アプリケーションをお客様のソース環境で保持します。これには、主要なリファクタリングを必要とするアプリケーションや、お客様がその作業を後日まで延期したいアプリケーション、およびそれらを行行するためのビジネス上の正当性がないため、お客様が保持するレガシーアプリケーションなどがあります。
- 廃止 — お客様のソース環境で不要になったアプリケーションを停止または削除します。

A

ABAC

[「属性ベースのアクセス制御」](#)をご覧ください。

抽象化されたサービス

[「マネージドユーザー」](#)をご覧ください。

ACID

[「原子性、一貫性、分離性、耐久性 \(ACID\)」](#)をご覧ください。

アクティブ/アクティブ移行

(双方向レプリケーションツールまたは二重書き込み操作を使用して) ソースデータベースとターゲットデータベースを同期させ、移行中に両方のデータベースが接続アプリケーションからのトランザクションを処理するデータベース移行方法。この方法では、1 回限りのカットオーバーの必要がなく、管理された小規模なバッチで移行できます。[アクティブ/パッシブ移行](#)よりも柔軟な方法ですが、さらに多くの作業が必要となります。

アクティブ/パッシブ移行

ソースデータベースとターゲットデータベースを同期させながら、データがターゲットデータベースにレプリケートされている間、接続しているアプリケーションからのトランザクションをソースデータベースのみで処理するデータベース移行方法。移行中、ターゲットデータベースはトランザクションを受け付けません。

集計関数

複数行に処理を行い、グループ全体を対象に単一の戻り値を計算する SQL 関数。集計関数の例としては、SUM や MAX などがあります。

AI

[「人工知能」](#)をご覧ください。

AIOps

[「AI オペレーション」](#)をご覧ください。

匿名化

データセット内の個人情報を完全に削除するプロセス。匿名化は個人のプライバシー保護に役立ちます。匿名化されたデータは、もはや個人データとは見なされません。

アンチパターン

繰り返し起こる問題に対して頻繁に用いられる解決策で、その解決策が逆効果であったり、効果がなかったり、代替案よりも効果が低かったりするもの。

アプリケーション制御

マルウェアからシステムを保護するために、承認されたアプリケーションのみを使用できるようにするセキュリティアプローチ。

アプリケーションポートフォリオ

アプリケーションの構築と維持にかかるコスト、およびそのビジネス価値を含む、組織が使用する各アプリケーションに関する詳細情報の集まり。この情報は、[ポートフォリオの検出と分析プロセス](#)の重要な要素であり、移行、モダナイズ、最適化するアプリケーションを特定し、優先順位を付けるのに役立ちます。

人工知能 (AI)

コンピューティングテクノロジーを使用し、学習、問題の解決、パターンの認識など、通常は人間に関連づけられる認知機能の実行に特化したコンピュータサイエンスの分野。詳細については、「[人工知能 \(AI\) とは何ですか?](#)」をご覧ください。

AI オペレーション (AIOps)

機械学習技術を使用して運用上の問題を解決し、運用上のインシデントと人の介入を減らし、サービス品質を向上させるプロセス。AWS 移行戦略での AIOps の使用方法については、[オペレーション統合ガイド](#)を参照してください。

非対称暗号化

暗号化用のパブリックキーと復号用のプライベートキーから成る 1 組のキーを使用した、暗号化のアルゴリズム。パブリックキーは復号には使用されないため共有しても問題ありませんが、プライベートキーの利用は厳しく制限する必要があります。

原子性、一貫性、分離性、耐久性 (ACID)

エラー、停電、その他の問題が発生した場合でも、データベースのデータ有効性と運用上の信頼性を保証する一連のソフトウェアプロパティ。

属性ベースのアクセス制御 (ABAC)

部署、役職、チーム名など、ユーザーの属性に基づいてアクセス許可をきめ細かく設定する方法。詳細については、AWS Identity and Access Management (IAM) ドキュメントの「[の ABAC AWS](#)」を参照してください。

信頼できるデータソース

最も信頼性のある情報源とされるデータのプライマリーバージョンを保存する場所。匿名化、編集、仮名化など、データを処理または変更する目的で、信頼できるデータソースから他の場所にデータをコピーすることができます。

アベイラビリティゾーン (AZ)

他のアベイラビリティゾーンの障害から AWS リージョン 隔離され、同じリージョン内の他のアベイラビリティゾーンへの低コストで低レイテンシーのネットワーク接続を提供する 内の別の場所。

AWS クラウド導入フレームワーク (AWS CAF)

組織がクラウドへの移行を成功させるための効率的で効果的な計画を立て AWS するための、 のガイドラインとベストプラクティスのフレームワークです。AWS CAF は、ビジネス、人材、ガバナンス、プラットフォーム、セキュリティ、運用という 6 つの重点分野にガイダンスを整理しています。ビジネス、人材、ガバナンスの観点では、ビジネススキルとプロセスに重点を置き、プラットフォーム、セキュリティ、オペレーションの視点は技術的なスキルとプロセスに焦点を当てています。例えば、人材の観点では、人事 (HR)、人材派遣機能、および人材管理を扱うステークホルダーを対象としています。この観点から、AWS CAF は、クラウド導入を成功させるための組織の準備に役立つ人材開発、トレーニング、コミュニケーションに関するガイダンスを提供します。詳細については、[AWS CAF ウェブサイト](#)と [AWS CAF のホワイトペーパー](#) を参照してください。

AWS ワークロード認定フレームワーク (AWS WQF)

データベース移行ワークロードを評価し、移行戦略を推奨し、作業見積もりを提供するツール。AWS WQF は AWS Schema Conversion Tool (AWS SCT) に含まれています。データベーススキーマとコードオブジェクト、アプリケーションコード、依存関係、およびパフォーマンス特性を分析し、評価レポートを提供します。

B

不正なボット

個人や組織に混乱や損害を与えることを目的とした [ボット](#)。

BCP

「[ビジネス継続性計画 \(BCP\)](#)」をご覧ください。

動作グラフ

リソースの動作とインタラクションを経時的に示した、一元的なインタラクティブビュー。Amazon Detective の動作グラフを使用すると、失敗したログオンの試行、不審な API 呼び出し、その他同様のアクションを調べることができます。詳細については、Detective ドキュメントの「[動作グラフのデータ](#)」を参照してください。

ビッグエンディアンシステム

最上位バイトを最初に格納するシステム。「[エンディアン性](#)」もご覧ください。

二項分類

バイナリ結果 (2 つの可能なクラスのうちの一つ) を予測するプロセス。例えば、お客様の機械学習モデルで「この E メールはスパムですか、それともスパムではありませんか」などの問題を予測する必要があるかもしれません。または「この製品は書籍ですか、車ですか」などの問題を予測する必要があるかもしれません。

ブルームフィルター

要素がセットのメンバーであるかどうかをテストするために使用される、確率的でメモリ効率の高いデータ構造。

ブルー/グリーンデプロイ

それぞれが独立しているが、同一の環境を 2 つ作成するデプロイ戦略。現在のアプリケーションバージョンを 1 つの環境 (ブルー) で実行し、新しいアプリケーションバージョンを別の環境 (グリーン) で実行します。この戦略は、最小限の影響で迅速にロールバックするのに役立ちます。

ボット

インターネット経由で自動タスクを実行し、人間のアクティビティややり取りをシミュレートするソフトウェアアプリケーション。インターネット上の情報のインデックスを作成するウェブクローラーなど、一部のボットは有用または有益です。悪質なボットと呼ばれる他のボットの中には、個人や組織を混乱させたり、損害を与えたりすることを意図したものもあります。

ボットネット

[マルウェア](#)に感染しており、ボットハーダーまたはボットオペレーターと呼ばれる単一の当事者によって制御されている[ボット](#)のネットワーク。ボットネットは、ボットとその影響力を拡大する仕組みとして、非常によく知られています。

ブランチ

コードリポジトリに含まれる領域。リポジトリに最初に作成するブランチは、メインブランチといます。既存のブランチから新しいブランチを作成し、その新しいブランチで機能を開発した

り、バグを修正したりできます。機能を構築するために作成するブランチは、通常、機能ブランチと呼ばれます。機能をリリースする準備ができたなら、機能ブランチをメインブランチに統合します。詳細については、「[ブランチの概要](#)」(GitHub ドキュメント)を参照してください。

ブレイクグラスアクセス

例外的な状況では、承認されたプロセスを通じて、ユーザーが AWS アカウント 通常アクセス許可を持たないにすばやくアクセスできるようにします。詳細については、AWS Well-Architected ガイドの「[ブレイクグラス手順の実装](#)」インジケータを参照してください。

ブラウフィールド戦略

環境の既存インフラストラクチャ。システムアーキテクチャにブラウフィールド戦略を導入する場合、現在のシステムとインフラストラクチャの制約に基づいてアーキテクチャを設計します。既存のインフラストラクチャを拡張している場合は、ブラウフィールド戦略と[グリーンフィールド](#)戦略を融合させることもできます。

バッファキャッシュ

アクセス頻度が最も高いデータが保存されるメモリ領域。

ビジネス能力

価値を生み出すためにビジネスが行うこと (営業、カスタマーサービス、マーケティングなど)。マイクロサービスのアーキテクチャと開発の決定は、ビジネス能力によって推進できます。詳細については、[AWSでのコンテナ化されたマイクロサービスの実行](#)ホワイトペーパーの「[ビジネス機能を中心に組織化](#)」セクションを参照してください。

ビジネス継続性計画 (BCP)

大規模移行など、中断を伴うイベントが運用に与える潜在的な影響に対処し、ビジネスを迅速に再開できるようにする計画。

C

CAF

「[AWS クラウド導入フレームワーク](#)」を参照してください

カナリアデプロイ

エンドユーザーへのバージョンリリースを、時間をかけて段階的に行うこと。確信が持てたら新規バージョンをデプロイして、現在のバージョン全体を置き換えます。

CCoE

「[Cloud Center of Excellence](#)」を参照してください。

CDC

「[変更データキャプチャ](#)」を参照してください。

変更データキャプチャ (CDC)

データソース (データベーステーブルなど) の変更を追跡し、その変更に関するメタデータを記録するプロセス。CDC は、ターゲットシステムでの変更を監査またはレプリケートして同期を維持するなど、さまざまな目的に使用できます。

カオスエンジニアリング

障害や破壊的なイベントを意図的に導入して、システムの耐障害性をテストすること。[AWS Fault Injection Service \(AWS FIS\)](#) を使用して、AWS ワークロードにストレスを与え、その応答を評価する実験を実行できます。

CI/CD

「[継続的インテグレーションと継続的デリバリー](#)」を参照してください。

分類

予測を生成するのに役立つ分類プロセス。分類問題の機械学習モデルは、離散値を予測します。離散値は、常に互いに区別されます。例えば、モデルがイメージ内に車があるかどうかを評価する必要がある場合があります。

クライアント側の暗号化

ターゲットがデータ AWS のサービスを受信する前のローカルでのデータの暗号化。

Cloud Center of Excellence (CCoE)

クラウドのベストプラクティスの作成、リソースの移動、移行のタイムラインの確立、大規模変革を通じて組織をリードするなど、組織全体のクラウド導入の取り組みを推進する学際的なチーム。詳細については、AWS クラウド エンタープライズ戦略ブログの [CCoE 投稿](#) を参照してください。

クラウドコンピューティング

リモートデータストレージと IoT デバイス管理に通常使用されるクラウドテクノロジー。クラウドコンピューティングは、一般的に、[エッジコンピューティング](#)に接続されています。

クラウド運用モデル

IT 組織において、1 つ以上のクラウド環境を構築、成熟、最適化するために使用される運用モデル。詳細については、「[クラウド運用モデルの構築](#)」を参照してください。

導入のクラウドステージ

組織が、AWS クラウドへの移行時に通常実行する 4 つの段階。

- プロジェクト — 概念実証と学習を目的として、クラウド関連のプロジェクトをいくつか実行する
- 基礎固め — お客様のクラウドの導入を拡大するための基礎的な投資 (ランディングゾーン の作成、CCoE の定義、運用モデルの確立など)
- 移行 — 個々のアプリケーションの移行
- 再発明 — 製品とサービスの最適化、クラウドでのイノベーション

これらのステージは、AWS クラウド エンタープライズ戦略ブログのブログ記事「[クラウドファーストへのジャーニー](#)」と「[導入のステージ](#)」で Stephen Orban によって定義されました。移行戦略との関連性については、AWS「[移行準備ガイド](#)」を参照してください。

CMDB

「[構成管理データベース \(CMDB\)](#)」を参照してください。

コードリポジトリ

ソースコードやその他の資産 (ドキュメント、サンプル、スクリプトなど) が保存され、バージョン管理プロセスを通じて更新される場所。一般的なクラウドリポジトリには、GitHub や Bitbucket Cloud があります。コードの各バージョンはブランチと呼ばれます。マイクロサービスの構造では、各リポジトリは 1 つの機能専用です。1 つの CI/CD パイプラインで複数のリポジトリを使用できます。

コールドキャッシュ

空である、または、かなり空きがある、もしくは、古いデータや無関係なデータが含まれているバッファキャッシュ。データベースインスタンスはメインメモリまたはディスクから読み取る必要があり、バッファキャッシュから読み取るよりも時間がかかるため、パフォーマンスに影響します。

コールドデータ

めったにアクセスされず、通常は過去のデータです。この種類のデータをクエリする場合、通常は低速なクエリでも問題ありません。このデータを低パフォーマンスで安価なストレージ階層またはクラスに移動すると、コストを削減することができます。

コンピュータビジョン (CV)

機械学習を使用してデジタルイメージやビデオといった、ビジュアル形式の情報を分析および抽出する [AI](#) の分野。例えば、Amazon SageMaker AI では、CV 用の画像処理アルゴリズムを利用できます。

設定ドリフト

ワークロードにおいて、設定が想定した状態から変化すること。これによって、ワークロードが非準拠になる可能性があります。この状態は、徐々に生じ、意図的なものではありません。

構成管理データベース (CMDB)

データベースとその IT 環境 (ハードウェアとソフトウェアの両方のコンポーネントとその設定を含む) に関する情報を保存、管理するリポジトリ。通常、CMDB のデータは、移行のポートフォリオの検出と分析の段階で使用します。

コンフォーマンスパック

コンプライアンスチェックとセキュリティチェックをカスタマイズするためにアセンブルできる AWS Config ルールと修復アクションのコレクション。YAML テンプレートを使用して、コンフォーマンスパックを AWS アカウント および リージョンの単一のエンティティとしてデプロイすることも、組織全体にデプロイすることもできます。詳細については、AWS Config ドキュメントの「[コンフォーマンスパック](#)」を参照してください。

継続的インテグレーションと継続的デリバリー (CI/CD)

ソフトウェアリリースプロセスのソース、ビルド、テスト、ステージング、本番の各ステージを自動化するプロセス。CI/CD は一般的にパイプラインと呼ばれます。プロセスの自動化、生産性の向上、コード品質の向上、配信の加速化を可能にします。詳細については、「[継続的デリバリーの利点](#)」を参照してください。CD は継続的デプロイ (Continuous Deployment) の略語でもあります。詳細については「[継続的デリバリーと継続的なデプロイ](#)」を参照してください。

CV

[「コンピュータビジョン」](#) を参照してください。

D

保管中のデータ

ストレージ内にあるデータなど、常に自社のネットワーク内にあるデータ。

データ分類

ネットワーク内のデータを重要度と機密性に基づいて識別、分類するプロセス。データに適した保護および保持のコントロールを判断する際に役立つため、あらゆるサイバーセキュリティのリスク管理戦略において重要な要素です。データ分類は、AWS Well-Architected フレームワークのセキュリティの柱のコンポーネントです。詳細については、「[データ分類](#)」を参照してください。

データドリフト

実稼働データと ML モデルのトレーニングに使用されたデータとの間に有意な差異が生じたり、入力データが時間の経過と共に有意に変化したりすることです。データドリフトは、ML モデル予測の全体的な品質、精度、公平性を低下させる可能性があります。

転送中のデータ

ネットワーク内 (ネットワークリソース間など) を活発に移動するデータ。

データメッシュ

非一元的で分散型のデータ所有権を持つとともに、一元的な管理およびガバナンスを行えるアーキテクチャフレームワーク。

データ最小化

厳密に必要なデータのみを収集し、処理するという原則。でデータ最小化を実践 AWS クラウドすることで、プライバシーリスク、コスト、分析のカーボンフットプリントを削減できます。

データ境界

AWS 環境内の一連の予防ガードレール。信頼された ID のみが、期待されるネットワークから信頼されたリソースにアクセスできるようにします。詳細については、「[AWS でのデータ境界の構築](#)」を参照してください。

データの前処理

raw データをお客様の機械学習モデルで簡単に解析できる形式に変換すること。データの前処理とは、特定の列または行を削除して、欠落している、矛盾している、または重複する値に対処することを意味します。

データ出所

データの生成、送信、保存の方法など、データのライフサイクル全体を通じてデータの出所と履歴を追跡するプロセス。

データ件名

データを収集、処理している個人。

データウェアハウス

分析などのビジネスインテリジェンスをサポートするデータ管理システム。データウェアハウスには、一般的に、大量の履歴データが含まれており、多くの場合、それらはクエリや分析に使用されます。

データベース定義言語 (DDL)

データベース内のテーブルやオブジェクトの構造を作成または変更するためのステートメントまたはコマンド。

データベース操作言語 (DML)

データベース内の情報を変更 (挿入、更新、削除) するためのステートメントまたはコマンド。

DDL

「[データベース定義言語](#)」を参照してください。

ディープアンサンブル

予測のために複数の深層学習モデルを組み合わせます。ディープアンサンブルを使用して、より正確な予測を取得したり、予測の不確実性を推定したりできます。

深層学習

人工ニューラルネットワークの複数層を使用して、入力データと対象のターゲット変数の間のマッピングを識別する機械学習サブフィールド。

多層防御

一連のセキュリティメカニズムとコントロールをコンピュータネットワーク全体に層状に重ねて、ネットワークとその内部にあるデータの機密性、整合性、可用性を保護する情報セキュリティの手法。この戦略をに採用するときは AWS、リソースの保護に役立つように、AWS Organizations 構造の異なるレイヤーに複数のコントロールを追加します。たとえば、多層防御アプローチでは、多要素認証、ネットワークセグメンテーション、暗号化を組み合わせることができます。

委任管理者

では AWS Organizations、互換性のあるサービスが AWS メンバーアカウントを登録して組織のアカウントを管理し、そのサービスのアクセス許可を管理できます。このアカウントを、そのサービスの委任管理者と呼びます。詳細、および互換性のあるサービスの一覧は、AWS

Organizations ドキュメントの「[AWS Organizationsで利用できるサービス](#)」を参照してください。

トラブルシューティング

アプリケーション、新機能、コードの修正をターゲットの環境で利用できるようにするプロセス。デプロイでは、コードベースに変更を施した後、アプリケーションの環境でそのコードベースを構築して実行します。

開発環境

「[環境](#)」を参照してください。

検出管理

イベントが発生したときに、検出、ログ記録、警告を行うように設計されたセキュリティコントロール。これらのコントロールは副次的な防衛手段であり、実行中の予防的コントロールをすり抜けたセキュリティイベントをユーザーに警告します。詳細については、「AWSでのセキュリティコントロールの実装」の「[検出的コントロール](#)」を参照してください。

開発バリューストリームマッピング (DVSM)

ソフトウェア開発ライフサイクルのスピードと品質に悪影響を及ぼす制約を特定し、優先順位を付けるために使用されるプロセス。DVSM は、もともとリーンマニファクチャリング・プラクティスのために設計されたバリューストリームマッピング・プロセスを拡張したものです。ソフトウェア開発プロセスを通じて価値を創造し、動かすために必要なステップとチームに焦点を当てています。

デジタルツイン

建物、工場、産業機器、生産ラインなど、現実世界のシステムを仮想的に表現したものです。デジタルツインは、予知保全、リモートモニタリング、生産最適化をサポートします。

ディメンションテーブル

[スタースキーマ](#)において、ファクトテーブルの定量データに関するデータ属性が含まれる小さいテーブル。ディメンションテーブルの属性は、通常、テキストフィールド、またはテキストのように扱える個別の数値で示されます。これらの属性は、一般的に、クエリの制約、フィルタリング、結果セットのラベル付けに使用されます。

デザスタ

ワークロードまたはシステムが、導入されている主要な場所でのビジネス目標の達成を妨げるイベント。これらのイベントは、自然災害、技術的障害、または意図しない設定ミスやマルウェア攻撃などの人間の行動の結果である場合があります。

ディザスタリカバリ (DR)

[ディザスタ](#)によるダウンタイムとデータ損失を最小限に抑えるための戦略とプロセス。詳細については、AWS Well-Architected フレームワークの「[でのワークロードのディザスタリカバリ](#)」[AWS: クラウドでのリカバリ](#)」を参照してください。

DML

「[データベース操作言語](#)」を参照してください。

ドメイン駆動型設計

各コンポーネントが提供している変化を続けるドメイン、またはコアビジネス目標にコンポーネントを接続して、複雑なソフトウェアシステムを開発するアプローチ。この概念は、エリック・エヴァンスの著書、Domain-Driven Design: Tackling Complexity in the Heart of Software (ドメイン駆動設計:ソフトウェアの中心における複雑さへの取り組み) で紹介されています (ポストン: Addison-Wesley Professional、2003)。strangler fig パターンでドメイン駆動型設計を使用する方法の詳細については、「[コンテナと Amazon API Gateway を使用して、従来の Microsoft ASP.NET \(ASMX\) ウェブサービスを段階的にモダナイズ](#)」を参照してください。

DR

「[ディザスタリカバリ](#)」を参照してください。

ドリフト検出

ベースライン設定からの偏差を追跡します。たとえば、AWS CloudFormation を使用して[システムリソースのドリフトを検出](#)したり、を使用して AWS Control Tower、ガバナンス要件への準拠に影響する[ランディングゾーンの変更を検出](#)したりできます。

DVSM

「[開発バリューSTREAMマッピング](#)」を参照してください。

E

EDA

「[探索的データ分析](#)」を参照してください。

EDI

「[電子データ交換](#)」を参照してください。

エッジコンピューティング

IoT ネットワークのエッジにあるスマートデバイスの計算能力を高めるテクノロジー。[クラウドコンピューティング](#)と比較すると、エッジコンピューティングは通信レイテンシーを短縮し、応答時間を改善できます。

電子データ交換 (EDI)

組織間で行う、ビジネスドキュメントの自動交換。詳細については、[「電子データ交換とは」](#)を参照してください。

暗号化

人間が読み取り可能なプレーンテキストデータを暗号文に変換するコンピューティング処理。

暗号化キー

暗号化アルゴリズムが生成した、ランダム化されたビットからなる暗号文字列。キーの長さは決まっておらず、各キーは予測できないように、一意になるように設計されています。

エンディアン

コンピュータメモリにバイトが格納される順序。ビッグエンディアンシステムでは、最上位バイトが最初に格納されます。リトルエンディアンシステムでは、最下位バイトが最初に格納されます。

エンドポイント

[「サービスエンドポイント」](#)を参照してください。

エンドポイントサービス

仮想プライベートクラウド (VPC) 内でホストして、他のユーザーと共有できるサービス。を使用してエンドポイントサービスを作成し AWS PrivateLink、他の AWS アカウント または AWS Identity and Access Management (IAM) プリンシパルにアクセス許可を付与できます。これらのアカウントまたはプリンシパルは、インターフェイス VPC エンドポイントを作成することで、エンドポイントサービスにプライベートに接続できます。詳細については、Amazon Virtual Private Cloud (Amazon VPC) ドキュメントの [「エンドポイントサービスを作成する」](#)を参照してください。

エンタープライズリソースプランニング (ERP)

エンタープライズの主要なビジネスプロセス (会計、[MES](#)、プロジェクト管理など) を自動化および管理するシステム。

エンベロープ暗号化

暗号化キーを、別の暗号化キーを使用して暗号化するプロセス。詳細については、AWS Key Management Service (AWS KMS) ドキュメントの「[エンベロープ暗号化](#)」を参照してください。

環境

実行中のアプリケーションのインスタンス。クラウドコンピューティングにおける一般的な環境の種類は以下のとおりです。

- 開発環境 — アプリケーションのメンテナンスを担当するコアチームのみが利用できる、実行中のアプリケーションのインスタンス。開発環境は、上位の環境に昇格させる変更をテストするときに使用します。このタイプの環境は、テスト環境と呼ばれることもあります。
- 下位環境 — 初期ビルドやテストに使用される環境など、アプリケーションのすべての開発環境。
- 本番環境 — エンドユーザーがアクセスできる、実行中のアプリケーションのインスタンス。CI/CD パイプラインでは、本番環境が最後のデプロイ環境になります。
- 上位環境 — コア開発チーム以外のユーザーがアクセスできるすべての環境。これには、本番環境、本番前環境、ユーザー承認テスト環境などが含まれます。

エピック

アジャイル方法論で、お客様の作業の整理と優先順位付けに役立つ機能カテゴリ。エピックでは、要件と実装タスクの概要についてハイレベルな説明を提供します。例えば、AWS CAF セキュリティエピックには、ID とアクセスの管理、検出コントロール、インフラストラクチャセキュリティ、データ保護、インシデント対応が含まれます。AWS 移行戦略のエピックの詳細については、[プログラム実装ガイド](#)を参照してください。

ERP

「[エンタープライズリソース計画](#)」を参照してください。

探索的データ分析 (EDA)

データセットを分析してその主な特性を理解するプロセス。お客様は、データを収集または集計してから、パターンの検出、異常の検出、および前提条件のチェックのための初期調査を実行します。EDA は、統計の概要を計算し、データの可視化を作成することによって実行されます。

F

ファクトテーブル

[スタースキーマ](#)の中央にあるテーブル。ビジネスオペレーションに関する定量的データが保存されます。一般的に、ファクトテーブルは、2種類の列で構成されます。1つは測定値が含まれる列、もう1つはディメンションテーブルへの外部キーが含まれる列です。

フェイルファスト

開発ライフサイクルを短縮するために、頻繁かつ段階的にテストを行う哲学であり、アジャイルアプローチでは、この考え方がきわめて重要です。

障害分離境界

では AWS クラウド、障害の影響を制限し、ワークロードの耐障害性を高めるのに役立つアベイラビリティゾーン AWS リージョン、コントロールプレーン、データプレーンなどの境界。詳細については、「[AWS 障害分離境界](#)」を参照してください。

機能ブランチ

「[ブランチ](#)」を参照してください。

特徴量

お客様が予測に使用する入力データ。例えば、製造コンテキストでは、特徴量は製造ラインから定期的にキャプチャされるイメージの可能性もあります。

特徴量重要度

モデルの予測に対する特徴量の重要性。これは通常、Shapley Additive Deskonations (SHAP) や積分勾配など、さまざまな手法で計算できる数値スコアで表されます。詳細については、「[を使用した機械学習モデルの解釈可能性 AWS](#)」を参照してください。

機能変換

追加のソースによるデータのエンリッチ化、値のスケーリング、単一のデータフィールドからの複数の情報セットの抽出など、機械学習プロセスのデータを最適化すること。これにより、機械学習モデルはデータの恩恵を受けることができます。例えば、「2021-05-27 00:15:37」の日付を「2021年」、「5月」、「木」、「15」に分解すると、学習アルゴリズムがさまざまなデータコンポーネントに関連する微妙に異なるパターンを学習するのに役立ちます。

数ショットプロンプト

[LLM](#) に、タスクと望ましい出力を示す例を少数提示した後に、類似のタスクを実行させること。この手法は、プロンプトに記述された例(ショット)からモデルが学習する「インコンテキスト学

習」の一種です。数ショットプロンプトは、特定のフォーマット、推論、専門知識が必要なタスクに効果的です。「[ゼロショットプロンプト](#)」も参照してください。

FGAC

「[きめ細かなアクセス制御](#)」を参照してください。

きめ細かなアクセス制御 (FGAC)

複数の条件を使用してアクセス要求を許可または拒否すること。

フラッシュカット移行

[変更データのキャプチャ](#)による継続的なデータ複製を利用して、段階的なアプローチではなく、可能な限り短時間でデータを移行するデータベース移行方法。目的はダウンタイムを最小限に抑えることです。

FM

「[基盤モデル](#)」を参照してください。

基盤モデル (FM)

大規模な深層学習ニューラルネットワークであり、一般化およびラベル付けされていないデータからなる大規模データセットでトレーニングされています。FMにより、言語理解、テキストおよび画像生成、自然言語での会話といった、一般的な各種タスクを実行できます。詳細については、「[基盤モデルとは何ですか?](#)」を参照してください。

G

生成 AI

[AI](#) モデルのサブセット。大量のデータでトレーニングされており、シンプルなテキストプロンプトを使用して、画像、動画、テキスト、オーディオなどの新しいコンテンツやアーティファクトを作成できます。詳細については、「[生成 AI とは何ですか?](#)」を参照してください。

ジオブロッキング

「[地理的制限](#)」を参照してください。

地理的制限 (ジオブロッキング)

特定の国のユーザーがコンテンツ配信にアクセスできないようにするための、Amazon CloudFront のオプション。アクセスを許可する国と禁止する国は、許可リストまたは禁止リスト

を使って指定します。詳細については、CloudFront ドキュメントの「[コンテンツの地理的ディストリビューションの制限](#)」を参照してください。

Gitflow ワークフロー

下位環境と上位環境が、ソースコードリポジトリでそれぞれ異なるブランチを使用する方法。Gitflow ワークフローは古いと見なされている方法であり、[トランクベースのワークフロー](#)は推奨されている新しい方法です。

ゴールデンイメージ

システムまたはソフトウェアのスナップショットであり、システムまたはソフトウェアの新規インスタンスをデプロイするテンプレートとして使用されます。製造の例で言えば、ゴールデンイメージを使用すると、複数のデバイスにソフトウェアをプロビジョニングして、デバイス製造オペレーションの速度、スケーラビリティ、生産性を向上させることができます。

グリーンフィールド戦略

新しい環境に既存のインフラストラクチャが存在しないこと。システムアーキテクチャにグリーンフィールド戦略を導入する場合、既存のインフラストラクチャ (別名 [ブラウンフィールド](#)) との互換性の制約を受けることなく、あらゆる新しいテクノロジーを選択できます。既存のインフラストラクチャを拡張している場合は、ブラウンフィールド戦略とグリーンフィールド戦略を融合させることもできます。

ガードレール

組織単位 (OU) 全般のリソース、ポリシー、コンプライアンスを管理するのに役立つ概略的なルール。予防ガードレールは、コンプライアンス基準に一致するようにポリシーを実施します。これらは、サービスコントロールポリシーと IAM アクセス許可の境界を使用して実装されます。検出ガードレールは、ポリシー違反やコンプライアンス上の問題を検出し、修復のためのアラートを発信します。これらは AWS Config、AWS Security Hub CSPM、Amazon GuardDuty、AWS Trusted Advisor Amazon Inspector、およびカスタム AWS Lambda チェックを使用して実装されます。

H

HA

「[高可用性](#)」を参照してください。

異種混在データベースの移行

別のデータベースエンジンを使用するターゲットデータベースへお客様の出典データベースの移行 (例えば、Oracle から Amazon Aurora)。異種間移行は通常、アーキテクチャの再設計作業の一部であり、スキーマの変換は複雑なタスクになる可能性があります。[AWS は、スキーマの変換に役立つ AWS SCTを提供します。](#)

高可用性 (HA)

課題や災害が発生した場合に、介入なしにワークロードを継続的に運用できること。HA システムは、自動的にフェイルオーバーし、一貫して高品質のパフォーマンスを提供し、パフォーマンスへの影響を最小限に抑えながらさまざまな負荷や障害を処理するように設計されています。

ヒストリアンのモダナイゼーション

製造業のニーズによりよく応えるために、オペレーションテクノロジー (OT) システムをモダナイズし、アップグレードするためのアプローチ。ヒストリアンは、工場内のさまざまなソースからデータを収集して保存するために使用されるデータベースの一種です。

ホールドアウトデータ

[機械学習](#) モデルのトレーニング用データセットから保留される、ラベル付き履歴データの一部。ホールドアウトデータを使用すると、モデル予測をホールドアウトデータと比較して、モデルのパフォーマンスを評価できます。

同種データベースの移行

お客様の出典データベースを、同じデータベースエンジンを共有するターゲットデータベース (Microsoft SQL Server から Amazon RDS for SQL Server など) に移行する。同種間移行は、通常、リホストまたはリプラットフォーム化の作業の一部です。ネイティブデータベースユーティリティを使用して、スキーマを移行できます。

ホットデータ

リアルタイムデータや最近の翻訳データなど、頻繁にアクセスされるデータ。通常、このデータには高速なクエリ応答を提供する高性能なストレージ階層またはクラスが必要です。

ホットフィックス

本番環境の重大な問題を修正するために緊急で配布されるプログラム。緊急性が高いため、通常の DevOps のリリースワークフローからは外れた形で実施されます。

ハイパーケア期間

カットオーバー直後、移行したアプリケーションを移行チームがクラウドで管理、監視して問題に対処する期間。通常、この期間は 1~4 日です。ハイパーケア期間が終了すると、アプリケーションに対する責任は一般的に移行チームからクラウドオペレーションチームに移ります。

I

IaC

「[Infrastructure as Code](#)」を参照してください。

ID ベースのポリシー

AWS クラウド 環境内のアクセス許可を定義する 1 つ以上の IAM プリンシパルにアタッチされたポリシー。

アイドル状態のアプリケーション

90 日間の平均的な CPU およびメモリ使用率が 5~20% のアプリケーション。移行プロジェクトでは、これらのアプリケーションを廃止するか、オンプレミスに保持するのが一般的です。

IIoT

「[インダストリアル IoT](#)」を参照してください。

イミュータブルインフラストラクチャ

既存インフラストラクチャの更新、パッチ適用、変更などを行わずに、本番環境ワークロードに使用する新規インフラストラクチャをデプロイするモデル。本質的に、イミュータブルインフラストラクチャは、[ミュータブルインフラストラクチャ](#)よりも一貫性、信頼性、予測性に優れています。詳細については、AWS Well-Architected フレームワークにある「[イミュータブルインフラストラクチャを使用してデプロイする](#)」のベストプラクティスを参照してください。

インバウンド (受信) VPC

AWS マルチアカウントアーキテクチャでは、アプリケーションの外部からネットワーク接続を受け入れ、検査し、ルーティングする VPC。[AWS Security Reference Architecture](#) では、アプリケーションとより広範なインターネット間の双方向のインターフェイスを保護するために、インバウンド、アウトバウンド、インスペクションの各 VPC を使用してネットワークアカウントを設定することを推奨しています。

I

増分移行

アプリケーションを 1 回ですべてカットオーバーするのではなく、小さい要素に分けて移行するカットオーバー戦略。例えば、最初は少数のマイクロサービスまたはユーザーのみを新しいシステムに移行する場合があります。すべてが正常に機能することを確認できたら、残りのマイクロサービスやユーザーを段階的に移行し、レガシーシステムを廃止できるようにします。この戦略により、大規模な移行に伴うリスクが軽減されます。

インダストリー 4.0

2016 年に [Klaus Schwab](#) 氏が提唱した用語で、接続、リアルタイムデータ、オートメーション、分析、AI/ML の進歩による、ビジネスプロセスのモダナイズを意味します。

インフラストラクチャ

アプリケーションの環境に含まれるすべてのリソースとアセット。

Infrastructure as Code (IaC)

アプリケーションのインフラストラクチャを一連の設定ファイルを使用してプロビジョニングし、管理するプロセス。IaC は、新しい環境を再現可能で信頼性が高く、一貫性のあるものにするため、インフラストラクチャを一元的に管理し、リソースを標準化し、スケールを迅速に行えるように設計されています。

インダストリアル IoT (IIoT)

製造、エネルギー、自動車、ヘルスケア、ライフサイエンス、農業などの産業部門におけるインターネットに接続されたセンサーやデバイスの使用。詳細については、「[インダストリアル IoT \(IIoT\) デジタルトランスフォーメーション戦略の構築](#)」を参照してください。

インスペクション VPC

AWS マルチアカウントアーキテクチャでは、VPC (同一または異なる 内 AWS リージョン)、インターネット、オンプレミスネットワーク間のネットワークトラフィックの検査を管理する一元化された VPCs。 [AWS Security Reference Architecture](#) では、アプリケーションとより広範なインターネット間の双方向のインターフェイスを保護するために、インバウンド、アウトバウンド、インスペクションの各 VPC を使用してネットワークアカウントを設定することを推奨しています。

IoT

インターネットまたはローカル通信ネットワークを介して他のデバイスやシステムと通信する、センサーまたはプロセッサが組み込まれた接続済み物理オブジェクトのネットワーク。詳細については、「[IoT とは](#)」を参照してください。

解釈可能性

機械学習モデルの特性で、モデルの予測がその入力にどのように依存するかを人間が理解できる度合いを表します。詳細については、[「を使用した機械学習モデルの解釈可能性 AWS」](#)を参照してください。

IoT

[「IoT」](#)を参照してください。

IT 情報ライブラリ (ITIL)

IT サービスを提供し、これらのサービスをビジネス要件に合わせるための一連のベストプラクティス。ITIL は ITSM の基盤を提供します。

IT サービス管理 (ITSM)

組織の IT サービスの設計、実装、管理、およびサポートに関連する活動。クラウドオペレーションと ITSM ツールの統合については、[オペレーション統合ガイド](#)を参照してください。

ITIL

[「IT 情報ライブラリ」](#)を参照してください。

ITSM

[「IT サービス管理」](#)を参照してください。

L

ラベルベースアクセス制御 (LBAC)

強制アクセス制御 (MAC) の実装で、ユーザーとデータ自体にそれぞれセキュリティラベル値が明示的に割り当てられます。ユーザーセキュリティラベルとデータセキュリティラベルが交差する部分によって、ユーザーに表示される行と列が決まります。

ランディングゾーン

ランディングゾーンは、スケーラブルで安全な、適切に設計されたマルチアカウント AWS 環境です。これは、組織がセキュリティおよびインフラストラクチャ環境に自信を持ってワークロードとアプリケーションを迅速に起動してデプロイできる出発点です。ランディングゾーンの詳細については、[「安全でスケーラブルなマルチアカウント AWS 環境のセットアップ」](#)を参照してください。

大規模言語モデル (LLM)

大量のデータで事前トレーニングされた深層学習 AI モデル。LLM では、質問への回答、ドキュメントの要約、他言語へのテキスト翻訳、文を完成させるなど、さまざまなタスクを実行できます。詳細については、「[大規模言語モデル \(LLM\) とは何ですか?](#)」を参照してください。

大規模な移行

300 台以上のサーバの移行。

LBAC

「[ラベルベースアクセス制御](#)」を参照してください。

最小特権

タスクの実行には必要最低限の権限を付与するという、セキュリティのベストプラクティス。詳細については、IAM ドキュメントの「[最小特権アクセス許可を適用する](#)」を参照してください。

リフトアンドシフト

「[7 Rs](#)」を参照してください。

リトルエンディアンシステム

最下位バイトを最初に格納するシステム。「[エンディアン性](#)」もご覧ください。

LLM

「[大規模言語モデル](#)」を参照してください。

下位環境

「[環境](#)」を参照してください。

M

機械学習 (ML)

パターン認識と学習にアルゴリズムと手法を使用する人工知能の一種。ML は、モノのインターネット (IoT) データなどの記録されたデータを分析して学習し、パターンに基づく統計モデルを生成します。詳細については、「[機械学習](#)」を参照してください。

メインブランチ

「[ブランチ](#)」を参照してください。

マルウェア

コンピュータのセキュリティやプライバシーを侵害するように設計されたソフトウェア。マルウェアは、コンピュータシステムの中断、機密情報の漏洩、不正アクセスを招く可能性があります。マルウェアの例には、ウイルス、ワーム、ランサムウェア、トロイの木馬、スパイウェア、キーロガーなどがあります。

マネージドサービス

AWS のサービスはインフラストラクチャレイヤー、オペレーティングシステム、プラットフォーム AWS を運用し、エンドポイントにアクセスしてデータを保存および取得します。マネージドサービスの例として、Amazon Simple Storage Service (Amazon S3) と Amazon DynamoDB が挙げられます。このサービスは、抽象化されたサービスとも呼ばれます。

製造実行システム (MES)

生産プロセスを追跡、モニタリング、文書化、制御するソフトウェアシステムであり、工場では、これによって、原材料から製品を完成させます。

MAP

[「Migration Acceleration Program」](#) を参照してください。

メカニズム

ツールを作成してその導入を推進し、導入結果を調べて調整を行うための包括的なプロセス。メカニズムとは、運用中にそれ自体を強化し改善するサイクルを意味します。詳細については、AWS 「Well-Architected フレームワーク」の [「メカニズムの構築」](#) を参照してください。

メンバーアカウント

組織の一部である管理アカウント AWS アカウント 以外のすべて AWS Organizations。アカウントが組織のメンバーになることができるのは、一度に 1 つのみです。

MES

[「製造実行システム」](#) を参照してください。

Message Queuing Telemetry Transport (MQTT)

[発行/サブスクリプション](#) のパターンに基づく、軽量のマシンツーマシン (M2M) 通信プロトコルであり、リソースに限りのある [IoT](#) デバイスに使用されます。

マイクロサービス

明確に定義された API を介して通信し、通常は小規模な自己完結型のチームが所有する、小規模で独立したサービスです。例えば、保険システムには、販売やマーケティングなどのビジネス

機能、または購買、請求、分析などのサブドメインにマッピングするマイクロサービスが含まれる場合があります。マイクロサービスの利点には、俊敏性、柔軟なスケーリング、容易なデプロイ、再利用可能なコード、回復力などがあります。詳細については、[AWS「サーバーレスサービスを使用したマイクロサービスの統合」](#)を参照してください。

マイクロサービスアーキテクチャ

各アプリケーションプロセスをマイクロサービスとして実行する独立したコンポーネントを使用してアプリケーションを構築するアプローチ。これらのマイクロサービスは、軽量 API を使用して、明確に定義されたインターフェイスを介して通信します。このアーキテクチャの各マイクロサービスは、アプリケーションの特定の機能に対する需要を満たすように更新、デプロイ、およびスケーリングできます。詳細については、「[でのマイクロサービスの実装 AWS](#)」を参照してください。

Migration Acceleration Program (MAP)

組織がクラウドに移行するための強力な運用基盤を構築し、移行の初期コストを相殺するのに役立つコンサルティングサポート、トレーニング、サービスを提供する AWS プログラム。MAP には、組織的な方法でレガシー移行を実行するための移行方法論と、一般的な移行シナリオを自動化および高速化する一連のツールが含まれています。

大規模な移行

アプリケーションポートフォリオの大部分を次々にクラウドに移行し、各ウェーブでより多くのアプリケーションを高速に移動させるプロセス。この段階では、以前の段階から学んだベストプラクティスと教訓を使用して、移行ファクトリー チーム、ツール、プロセスのうち、オートメーションとアジャイルデリバリーによってワークロードの移行を合理化します。これは、[AWS 移行戦略](#) の第 3 段階です。

移行ファクトリー

自動化された俊敏性のあるアプローチにより、ワークロードの移行を合理化する部門横断的なチーム。移行ファクトリーチームには、通常、運用、ビジネスアナリストおよび所有者、移行エンジニア、デベロッパー、およびスプリントで作業する DevOps プロフェッショナルが含まれます。エンタープライズアプリケーションポートフォリオの 20~50% は、ファクトリーのアプローチによって最適化できる反復パターンで構成されています。詳細については、このコンテンツセットの[移行ファクトリーに関する解説](#)と [Cloud Migration Factory ガイド](#)を参照してください。

移行メタデータ

移行を完了するために必要なアプリケーションおよびサーバーに関する情報。移行パターンごとに、異なる一連の移行メタデータが必要です。移行メタデータの例としては、ターゲットサブネット、セキュリティグループ、AWS アカウントなどがあります。

移行パターン

移行戦略、移行先、および使用する移行アプリケーションまたはサービスを詳述する、反復可能な移行タスク。例: AWS Application Migration Service を使用して Amazon EC2 への移行をリホストします。

Migration Portfolio Assessment (MPA)

オンラインツール。これによって、AWS クラウドに移行するビジネスケースの検証に必要な情報を得られます。MPA は、詳細なポートフォリオ評価 (サーバーの適切なサイジング、価格設定、TCO 比較、移行コスト分析) および移行プラン (アプリケーションデータの分析とデータ収集、アプリケーションのグループ化、移行の優先順位付け、およびウェーブプランニング) を提供します。[MPA ツール](#) (ログインが必要) は、すべての AWS コンサルタントと APN パートナー コンサルタントが無料で利用できます。

移行準備状況評価 (MRA)

AWS CAF を使用して、組織のクラウド準備状況に関するインサイトを取得し、長所と短所を特定し、特定されたギャップを埋めるためのアクションプランを構築するプロセス。詳細については、[移行準備状況ガイド](#)を参照してください。MRA は、[AWS 移行戦略](#)の第一段階です。

移行戦略

ワークロードを AWS クラウドに移行するために使用するアプローチ。詳細については、この用語集の [7 Rs](#) エントリと、「[組織を動員して大規模な移行を加速する](#)」を参照してください。

ML

「[機械学習](#)」を参照してください。

モダナイゼーション

古い (レガシーまたはモノリシック) アプリケーションとそのインフラストラクチャをクラウド内の俊敏で弾力性のある高可用性システムに変換して、コストを削減し、効率を高め、イノベーションを活用します。詳細については、「[AWS クラウドでのアプリケーションのモダナイズ戦略](#)」を参照してください。

モダナイゼーション準備状況評価

組織のアプリケーションのモダナイゼーションの準備状況を判断し、利点、リスク、依存関係を特定し、組織がこれらのアプリケーションの将来の状態をどの程度適切にサポートできるかを決定するのに役立つ評価。評価の結果として、ターゲットアーキテクチャのブループリント、モダナイゼーションプロセスの開発段階とマイルストーンを詳述したロードマップ、特定されたギャップに対処するためのアクションプランが得られます。詳細については、「[AWS クラウドでのアプリケーションのモダナイゼーションの準備状況を評価する](#)」を参照してください。

モノリシックアプリケーション (モノリス)

緊密に結合されたプロセスを持つ単一のサービスとして実行されるアプリケーション。モノリシックアプリケーションにはいくつかの欠点があります。1つのアプリケーション機能エクスペリエンスの需要が急増する場合は、アーキテクチャ全体をスケーリングする必要があります。モノリシックアプリケーションの特徴を追加または改善することは、コードベースが大きくなると複雑になります。これらの問題に対処するには、マイクロサービスアーキテクチャを使用できます。詳細については、「[モノリスをマイクロサービスに分解する](#)」を参照してください。

MPA

「[Migration Portfolio Assessment](#)」を参照してください。

MQTT

「[Message Queuing Telemetry Transport](#)」を参照してください。

多クラス分類

複数のクラスの予測を生成するプロセス (2 つ以上の結果の 1 つを予測します)。例えば、機械学習モデルが、「この製品は書籍、自動車、電話のいずれですか?」または、「このお客様にとって最も関心のある商品のカテゴリはどれですか?」と聞くかもしれません。

ミュータブルなインフラストラクチャ

本番ワークロードに使用する既存のインフラストラクチャを更新および変更するためのモデル。Well-Architected AWS フレームワークでは、一貫性、信頼性、予測可能性を向上させるために、[イミュータブルインフラストラクチャ](#)の使用をベストプラクティスとして推奨しています。

O

OAC

「[オリジンアクセス制御](#)」を参照してください。

OAI

「[オリジンアクセスアイデンティティ](#)」を参照してください。

OCM

「[組織変更管理](#)」を参照してください。

オフライン移行

移行プロセス中にソースワークロードを停止させる移行方法。この方法はダウンタイムが長くなるため、通常は重要ではない小規模なワークロードに使用されます。

OI

「[オペレーション統合](#)」を参照してください。

Ola

「[オペレーショナルレベルアグリーメント](#)」を参照してください。

オンライン移行

ソースワークロードをオフラインにせずにターゲットシステムにコピーする移行方法。ワークロードに接続されているアプリケーションは、移行中も動作し続けることができます。この方法はダウンタイムがゼロから最小限で済むため、通常は重要な本番稼働環境のワークロードに使用されます。

OPC-UA

「[Open Process Communications - Unified Architecture](#)」を参照してください。

Open Process Communications - Unified Architecture (OPC-UA)

産業オートメーション用のマシンツーマシン (M2M) 通信プロトコル。OPC-UA により、相互運用の際に、データ暗号化、認証、認可の各スキームを標準化できます。

オペレーショナルレベルアグリーメント (OLA)

サービスレベルアグリーメント (SLA) をサポートするために、どの機能的 IT グループが互いに提供することを約束するかを明確にする契約。

運用準備状況レビュー (ORR)

質問と関連するベストプラクティスのチェックリスト。インシデントや起こり得る障害を理解、評価、防止したり、その範囲を縮小したりする際に役立ちます。詳細については、AWS Well-Architected フレームワークの「[Operational Readiness Reviews \(ORR\)](#)」を参照してください。

運用テクノロジー (OT)

産業オペレーション、機器、インフラストラクチャを制御するために物理環境と連携させるハードウェアおよびソフトウェアシステム。製造分野では、[Industry 4.0](#) への変革を進める上で、OT と情報技術 (IT) システムの統合に焦点が当てられています。

オペレーション統合 (OI)

クラウドでオペレーションをモダナイズするプロセスには、準備計画、オートメーション、統合が含まれます。詳細については、[オペレーション統合ガイド](#)を参照してください。

組織の証跡

組織 AWS アカウント 内のすべてのイベント AWS CloudTrail をログに記録することによって作成された証跡 AWS Organizations。証跡は、組織に含まれている各 AWS アカウントに作成され、各アカウントのアクティビティを追跡します。詳細については、CloudTrail ドキュメントの「[組織の証跡の作成](#)」を参照してください。

組織変更管理 (OCM)

人材、文化、リーダーシップの観点から、主要な破壊的なビジネス変革を管理するためのフレームワーク。OCM は、変化の導入を加速し、移行問題に対処し、文化や組織の変化を推進することで、組織が新しいシステムと戦略の準備と移行するのを支援します。AWS 移行戦略では、クラウド導入プロジェクトに必要な変化のスピードにより、このフレームワークは人材アクセラレーションと呼ばれます。詳細については、[OCM ガイド](#)を参照してください。

オリジンアクセス制御 (OAC)

Amazon Simple Storage Service (Amazon S3) コンテンツを保護するための、CloudFront のアクセス制限の強化オプション。OAC は AWS リージョン、すべての S3 バケット、AWS KMS (SSE-KMS) によるサーバー側の暗号化、S3 バケットへの動的 PUT および DELETE リクエストをサポートします。

オリジンアクセスアイデンティティ (OAI)

CloudFront の、Amazon S3 コンテンツを保護するためのアクセス制限オプション。OAI を使用すると、CloudFront が、Amazon S3 に認証可能なプリンシパルを作成します。認証されたプリンシパルは、S3 バケット内のコンテンツに、特定の CloudFront ディストリビューションを介してのみアクセスできます。[OAC](#) も併せて参照してください。OAC では、より詳細な、強化されたアクセス制御が可能です。

ORR

「[運用準備状況レビュー](#)」を参照してください。

OT

「[運用テクノロジー](#)」を参照してください。

アウトバウンド (送信) VPC

AWS マルチアカウントアーキテクチャでは、アプリケーション内から開始されたネットワーク接続を処理する VPC。AWS Security Reference Architecture では、アプリケーションとより広範なインターネット間の双方向のインターフェイスを保護するために、インバウンド、アウトバウンド、インスペクションの各 VPC を使用してネットワークアカウントを設定することを推奨しています。

P

アクセス許可の境界

ユーザーまたはロールが使用できるアクセス許可の上限を設定する、IAM プリンシパルにアタッチされる IAM 管理ポリシー。詳細については、IAM ドキュメントの[アクセス許可の境界](#)を参照してください。

個人を特定できる情報 (PII)

直接閲覧した場合、または他の関連データと組み合わせた場合に、個人の身元を合理的に推測するために使用できる情報。PII の例には、氏名、住所、連絡先情報などがあります。

PII

「[個人を特定できる情報](#)」を参照してください。

プレイブック

クラウドでのコアオペレーション機能の提供など、移行に関連する作業を取り込む、事前定義された一連のステップ。プレイブックは、スクリプト、自動ランブック、またはお客様のモダナイズされた環境を運用するために必要なプロセスや手順の要約などの形式をとることができます。

PLC

「[プログラマブルロジックコントローラー](#)」を参照してください。

PLM

「[製品ライフサイクル管理](#)」を参照してください。

ポリシー

次の操作を可能にするオブジェクト: アクセス許可を定義する ([ID ベースのポリシー](#)を参照)。アクセス条件を指定する ([リソースベースのポリシー](#)を参照)。AWS Organizations の組織における全アカウントにアクセス許可の上限を定義する ([サービスコントロールポリシー](#)を参照)。

多言語の永続性

データアクセスパターンやその他の要件に基づいて、マイクロサービスのデータストレージテクノロジーを個別に選択します。マイクロサービスが同じデータストレージテクノロジーを使用している場合、実装上の問題が発生したり、パフォーマンスが低下する可能性があります。マイクロサービスは、要件に最も適合したデータストアを使用すると、より簡単に実装でき、パフォーマンスとスケーラビリティが向上します。

ポートフォリオ評価

移行を計画するために、アプリケーションポートフォリオの検出、分析、優先順位付けを行うプロセス。詳細については、「[移行の準備状況の評価](#)」を参照してください。

述語

true または false を返すためのクエリ条件。一般的に、WHERE 句に記述されます。

述語プッシュダウン

データベースクエリを最適化する手法。これによって、転送前にクエリ内のデータをフィルタリングします。この手法を取ると、リレーショナルデータベースから取得し処理する必要のあるデータの量が減少するため、クエリのパフォーマンスが向上します。

予防的コントロール

イベントの発生を防ぐように設計されたセキュリティコントロール。このコントロールは、ネットワークへの不正アクセスや好ましくない変更を防ぐ最前線の防御です。詳細については、「AWSでのセキュリティコントロールの実装」の「[予防的コントロール](#)」を参照してください。

プリンシパル

アクションを実行し AWS、リソースにアクセスできるのエンティティ。このエンティティは通常、IAM AWS アカウントロール、またはユーザーのルートユーザーです。詳細については、IAM ドキュメントの「[ロールに関する用語と概念](#)」にあるプリンシパルを参照してください。

プライバシーバイデザイン

開発プロセス全体を通してプライバシーが考慮されているシステムエンジニアリングのアプローチ。

プライベートホストゾーン

1 つ以上の VPC 内のドメインとそのサブドメインへの DNS クエリに対し、Amazon Route 53 がどのように応答するかに関する情報を保持するコンテナ。詳細については、Route 53 ドキュメントの「[プライベートホストゾーンの使用](#)」を参照してください。

プロアクティブコントロール

非準拠リソースのデプロイ防止を目的とした[セキュリティコントロール](#)。このコントロールにより、プロビジョニング前にリソースをスキャンします。コントロールに準拠していないリソースは、プロビジョニングされません。詳細については、AWS Control Tower ドキュメントの「[コントロールリファレンスガイド](#)」および「[セキュリティコントロールの実装](#)」の「[プロアクティブコントロール](#)」を参照してください。 AWS

製品ライフサイクル管理 (PLM)

製品の設計、開発、発売から、成長、成熟、衰退、廃棄に至る、製品のライフサイクル全体を通してデータとプロセスを管理すること。

本番環境

「[環境](#)」を参照してください。

プログラマブルロジックコントローラー (PLC)

製造分野で使用される、信頼性と適応性に優れたコンピュータであり、これによって、マシンをモニタリングするとともに、製造プロセスを自動化します。

プロンプトチェイニング

1 つの [LLM](#) プロンプトによる出力を次のプロンプトの入力に使用して、より良いレスポンスを生成します。この手法を使用すると、複雑なタスクをサブタスクに分割したり、事前レスポンスを繰り返し改良または拡張したりできます。これによって、モデルのレスポンスの精度と関連性が向上し、粒度の高いパーソナライズされた結果を得られます。

仮名化

データセット内の個人識別子をプレースホルダー値に置き換えるプロセス。仮名化は個人のプライバシー保護に役立ちます。仮名化されたデータは、依然として個人データとみなされます。

発行/サブスクライブ (pub/sub)

マイクロサービス間の非同期通信を可能にするパターン。これにより、スケーラビリティと応答性を向上させます。例えば、マイクロサービスベースの [MES](#) の場合、マイクロサービスは、他のマイクロサービスがサブスクライブ可能なチャンネルにイベントメッセージを発行できます。このシステムでは、発行サービスの変更なしに、新規マイクロサービスを追加できます。

Q

クエリプラン

手順などの一連のステップであり、SQL リレーショナルデータベースシステムのデータにアクセスするために使用されます。

クエリプランのリグレッション

データベースサービスのオプティマイザーが、データベース環境に特定の変更が加えられる前に選択されたプランよりも最適性の低いプランを選択すること。これは、統計、制限事項、環境設定、クエリパラメータのバインディングの変更、およびデータベースエンジンの更新などが原因である可能性があります。

R

RACI マトリックス

「[実行責任者、説明責任者、協業先、報告先 \(RACI\)](#)」を参照してください。

RAG

「[検索拡張生成](#)」を参照してください。

ランサムウェア

決済が完了するまでコンピュータシステムまたはデータへのアクセスをブロックするように設計された、悪意のあるソフトウェア。

RASCI マトリックス

「[実行責任者、説明責任者、協業先、報告先 \(RACI\)](#)」を参照してください。

RCAC

「[行と列のアクセス制御](#)」を参照してください。

リードレプリカ

読み取り専用で使用されるデータベースのコピー。クエリをリードレプリカにルーティングして、プライマリデータベースへの負荷を軽減できます。

リアーキテクト

「[7 Rs](#)」を参照してください。

目標復旧時点 (RPO)

最後のデータリカバリポイントからの最大許容時間です。これにより、最後の回復時点からサービスが中断されるまでの間に許容できるデータ損失の程度が決まります。

目標復旧時間 (RTO)

サービスが中断から復旧までの最大許容遅延時間。

リファクタリング

「[7 Rs](#)」を参照してください。

リージョン

地理的エリア内の AWS リソースのコレクション。各 AWS リージョンは、耐障害性、安定性、耐障害性を提供するために、他のから分離され、独立しています。詳細については、「[アカウントが使用できる AWS リージョンを指定する](#)」を参照してください。

リグレッション

数値を予測する機械学習手法。例えば、「この家はどれくらいの値段で売れるでしょうか?」という問題を解決するために、機械学習モデルは、線形回帰モデルを使用して、この家に関する既知の事実 (平方フィートなど) に基づいて家の販売価格を予測できます。

リホスト

「[7 Rs](#)」を参照してください。

リリース

デプロイプロセスで、変更を本番環境に昇格させること。

再配置

「[7 Rs](#)」を参照してください。

リプラットフォーム

「[7 Rs](#)」を参照してください。

再購入

「[7 Rs](#)」を参照してください。

回復性

中断に抵抗または中断から回復するアプリケーションの機能。AWS クラウドでの回復力を計画する際には、一般的に、[高可用性](#)と[ディザスタリカバリ](#)が考慮されます。詳細については、「[AWS クラウドの耐障害性](#)」を参照してください。

リソースベースのポリシー

Amazon S3 バケット、エンドポイント、暗号化キーなどのリソースにアタッチされたポリシー。このタイプのポリシーは、アクセスが許可されているプリンシパル、サポートされているアクション、その他の満たすべき条件を指定します。

実行責任者、説明責任者、協業先、報告先 (RACI) に基づくマトリックス

移行活動とクラウド運用に関わるすべての関係者の役割と責任を定義したマトリックス。マトリックスの名前は、マトリックスで定義されている責任の種類、すなわち責任 (R)、説明責任 (A)、協議 (C)、情報提供 (I) に由来します。サポート (S) タイプはオプションです。サポートが含まれる場合は RASCI マトリックスと呼ばれ、含まれない場合は RACI マトリックスと呼ばれます。

レスポンスコントロール

有害事象やセキュリティベースラインからの逸脱について、修復を促すように設計されたセキュリティコントロール。詳細については、「AWSでのセキュリティコントロールの実装」の「[レスポンスコントロール](#)」を参照してください。

保持

「[7 Rs](#)」を参照してください。

廃止

「[7 Rs](#)」を参照してください。

検索拡張生成 (RAG)

[生成 AI](#) の技術。これにより、[LLM](#) では、レスポンスの生成前に、トレーニングデータソースの外部にある信頼できるデータソースが参照されます。例えば、RAG モデルによって、組織のナレッジベースまたはカスタムデータのセマンティック検索を実行できる場合があります。細については、「[RAG \(検索拡張生成\) とは何ですか?](#)」を参照してください。

ローテーション

定期的に[シークレット情報](#)を更新して、攻撃者が認証情報にアクセスするのをより困難にするプロセス。

行と列のアクセス制御 (RCAC)

アクセスルールが定義された、基本的で柔軟な SQL 表現の使用。RCAC は行権限と列マスクで構成されています。

RPO

「[目標復旧時点](#)」を参照してください。

RTO

「[目標復旧時間](#)」を参照してください。

ランブック

特定のタスクを実行するために必要な手動または自動化された一連の手順。これらは通常、エラー率の高い反復操作や手順を合理化するために構築されています。

S

SAML 2.0

多くの ID プロバイダー (IdP) が使用しているオープンスタンダード。この機能を使用すると、フェデレーテッドシングルサインオン (SSO) が有効になるため、ユーザーは組織内のすべてのユーザーを IAM で作成しなくても、AWS マネジメントコンソールにログインしたり AWS、API オペレーションを呼び出すことができます。SAML 2.0 ベースのフェデレーションの詳細については、IAM ドキュメントの「[SAML 2.0 ベースのフェデレーションについて](#)」を参照してください。

SCADA

「[監視制御とデータ取得](#)」を参照してください。

SCP

「[サービスコントロールポリシー](#)」を参照してください。

シークレット

暗号化された形式で保存する AWS Secrets Manager パスワードやユーザー認証情報などの機密情報または制限付き情報。シークレット値とそのメタデータで構成されます。シークレット値には、バイナリ、1 つの文字列、複数の文字列を指定できます。詳細については、Secrets Manager ドキュメントの「[Secrets Manager シークレットの概要](#)」を参照してください。

セキュリティバイデザイン

開発プロセス全体を通してセキュリティが考慮されているシステムエンジニアリングのアプローチ。

セキュリティコントロール

脅威アクターによるセキュリティ脆弱性の悪用を防止、検出、軽減するための、技術上または管理上のガードレール。セキュリティコントロールには、主に 4 つの種類があります。4 つとは、[予防](#)、[検出](#)、[レスポンス](#)、[プロアクティブ](#)です。

セキュリティ強化

アタックサーフェスを狭めて攻撃への耐性を高めるプロセス。このプロセスには、不要になったリソースの削除、最小特権を付与するセキュリティのベストプラクティスの実装、設定ファイル内の不要な機能の無効化、といったアクションが含まれています。

Security Information and Event Management (SIEM) システム

セキュリティ情報管理 (SIM) とセキュリティイベント管理 (SEM) のシステムを組み合わせたツールとサービス。SIEM システムは、サーバー、ネットワーク、デバイス、その他ソースからデータを収集、モニタリング、分析して、脅威やセキュリティ違反を検出し、アラートを発信します。

セキュリティレスポンスの自動化

セキュリティイベントへの自動レスポンスまたは自動修復を目的として、事前定義およびプログラムされたアクション。これらの自動化は、セキュリティのベストプラクティスを実装するのに役立つ[検出的](#)または[応答的](#)な AWS セキュリティコントロールとして機能します。自動レスポンスアクションの例には、VPC セキュリティグループの変更、Amazon EC2 インスタンスへのパッチ適用、認証情報の更新などがあります。

サーバー側の暗号化

送信先で、それ AWS のサービスを受け取る によるデータの暗号化。

サービスコントロールポリシー (SCP)

AWS Organizationsの組織内の、すべてのアカウントのアクセス許可を一元的に管理するポリシー。SCP は、管理者がユーザーまたはロールに委任するアクションに、ガードレールを定義したり、アクションの制限を設定したりします。SCP は、許可リストまたは拒否リストとして、許可または禁止するサービスやアクションを指定する際に使用できます。詳細については、AWS Organizations ドキュメントの「[サービスコントロールポリシー](#)」を参照してください。

サービスエンドポイント

のエンドポイントの URL AWS のサービス。ターゲットサービスにプログラムで接続するには、エンドポイントを使用します。詳細については、「AWS 全般のリファレンス」の「[AWS のサービス エンドポイント](#)」を参照してください。

サービスレベルアグリーメント (SLA)

サービスのアップタイムやパフォーマンスなど、IT チームがお客様に提供すると約束したものを明示した合意書。

サービスレベルインジケータ (SLI)

エラー率、可用性、スループットといった、サービスパフォーマンス面の指標。

サービスレベル目標 (SLO)

[サービスレベルインジケータ](#)によって測定され、サービスの状態を表すターゲットメトリクス。

責任共有モデル

クラウドのセキュリティとコンプライアンス AWS について と共有する責任を説明するモデル。AWS はクラウドのセキュリティを担当しますが、 はクラウドのセキュリティを担当します。詳細については、「[責任共有モデル](#)」を参照してください。

SIEM

「[Security Information and Event Management システム](#)」を参照してください。

単一障害点 (SPOF)

特定のアプリケーションを構成する単一の重要なコンポーネントで発生し、システム稼働に支障をきたす可能性のある障害。

SLA

「[サービスレベルアグリーメント](#)」を参照してください。

SLI

「[サービスレベルインジケータ](#)」を参照してください。

SLO

「[サービスレベルの目標](#)」を参照してください。

スプリットアンドシードモデル

モダナイゼーションプロジェクトのスケーリングと加速のためのパターン。新機能と製品リリースが定義されると、コアチームは解放されて新しい製品チームを作成します。これにより、お客様の組織の能力とサービスの拡張、デベロッパーの生産性の向上、迅速なイノベーションのサポートに役立ちます。詳細については、「[AWS クラウドでのアプリケーションをモダナイズするための段階的アプローチ](#)」を参照してください。

SPOF

「[単一障害点](#)」を参照してください。

スタースキーマ

データベースの編成構造を意味し、1つの大きいファクトテーブルにトランザクションデータまたは測定データが保存され、1つ以上の小さいディメンションテーブルにデータ属性が保存されます。この構造は、[データウェアハウス](#)やビジネスインテリジェンスを用途とするように設計されています。

strangler fig パターン

レガシーシステムが廃止されるまで、システム機能を段階的に書き換えて置き換えることにより、モノリシックシステムをモダナイズするアプローチ。このパターンは、宿主の樹木から根を成長させ、最終的にその宿主を包み込み、宿主に取って代わるイチジクのつるを例えています。そのパターンは、モノリシックシステムを書き換えるときのリスクを管理する方法として [Martin Fowler](#) により提唱されました。このパターンの適用方法の例については、「[コンテナと Amazon API Gateway を使用して、従来の Microsoft ASP.NET \(ASMX\) ウェブサービスを段階的にモダナイズ](#)」を参照してください。

サブネット

VPC 内の IP アドレスの範囲。サブネットは、1つのアベイラビリティゾーンに存在する必要があります。

監視制御とデータ取得 (SCADA)

製造分野において、ハードウェアとソフトウェアを使用して物理アセットと本番運用をモニタリングするシステム。

対称暗号化

データの暗号化と復号に同じキーを使用する暗号化のアルゴリズム。

合成テスト

ユーザーとのやり取りをシミュレートして、起こり得る問題を検出したり、パフォーマンスをモニタリングしたりすることで、システムをテストします。[Amazon CloudWatch Synthetics](#) を使用すると、こうしたテストを作成できます。

システムプロンプト

コンテキスト、指示、ガイドラインなどを提示して、[LLM](#) に動作を指示する手法。システムプロンプトは、コンテキストを設定して、ユーザーとやり取りするルールを確立するのに有用です。

T

タグ

AWS リソースを整理するためのメタデータとして機能するキーと値のペア。タグは、リソースの管理、識別、整理、検索、フィルタリングに役立ちます。詳細については、「[AWS リソースのタグ付け](#)」を参照してください。

ターゲット変数

監督された機械学習でお客様が予測しようとしている値。これは、結果変数のことも指します。例えば、製造設定では、ターゲット変数が製品の欠陥である可能性があります。

タスクリスト

ランブックの進行状況を追跡するために使用されるツール。タスクリストには、ランブックの概要と完了する必要がある一般的なタスクのリストが含まれています。各一般的なタスクには、推定所要時間、所有者、進捗状況が含まれています。

テスト環境

「[環境](#)」を参照してください。

トレーニング

お客様の機械学習モデルに学習するデータを提供すること。トレーニングデータには正しい答えが含まれている必要があります。学習アルゴリズムは入力データ属性をターゲット (お客様が予測したい答え) にマッピングするトレーニングデータのパターンを検出します。これらのパターンをキャプチャする機械学習モデルを出力します。そして、お客様が機械学習モデルを使用して、ターゲットがわからない新しいデータでターゲットを予測できます。

トランジットゲートウェイ

VPC とオンプレミスネットワークを相互接続するために使用できる、ネットワークの中継ハブ。詳細については、AWS Transit Gateway ドキュメントの「[トランジットゲートウェイとは](#)」を参照してください。

トランクベースのワークフロー

デベロッパーが機能ブランチで機能をローカルにビルドしてテストし、その変更をメインブランチにマージするアプローチ。メインブランチはその後、開発環境、本番前環境、本番環境に合わせて順次構築されます。

信頼されたアクセス

ユーザーに代わって AWS Organizations およびそのアカウントで組織内でタスクを実行するために指定したサービスにアクセス許可を付与します。信頼されたサービスは、サービスにリンクされたロールを必要とときに各アカウントに作成し、ユーザーに代わって管理タスクを実行します。詳細については、ドキュメントの「[Using AWS Organizations with other AWS services](#) AWS Organizations」を参照してください。

チューニング

機械学習モデルの精度を向上させるために、お客様のトレーニングプロセスの側面を変更する。例えば、お客様が機械学習モデルをトレーニングするには、ラベル付けセットを生成し、ラベルを追加します。これらのステップを、異なる設定で複数回繰り返して、モデルを最適化します。

ツーピザチーム

2 枚のピザを分け合えることができるくらい小さな DevOps チーム。ツーピザチームの規模では、ソフトウェア開発におけるコラボレーションに最適な機会が確保されます。

U

不確実性

予測機械学習モデルの信頼性を損なう可能性がある、不正確、不完全、または未知の情報を指す概念。不確実性には、次の 2 つのタイプがあります。認識論的不確実性は、限られた、不完全なデータによって引き起こされ、弁論的不確実性は、データに固有のノイズとランダム性によって引き起こされます。

未分化なタスク

ヘビーリフティングとも呼ばれ、アプリケーションの作成と運用には必要だが、エンドユーザーに直接的な価値をもたらさなかったり、競争上の優位性をもたらしたりしない作業です。未分化なタスクの例としては、調達、メンテナンス、キャパシティプランニングなどがあります。

上位環境

「[環境](#)」を参照してください。

V

バキューミング

ストレージを再利用してパフォーマンスを向上させるために、増分更新後にクリーンアップを行うデータベースのメンテナンス操作。

バージョンコントロール

リポジトリ内のソースコードへの変更など、変更を追跡するプロセスとツール。

VPC ピアリング

プライベート IP アドレスを使用してトラフィックをルーティングできる、2 つの VPC 間の接続。詳細については、Amazon VPC ドキュメントの「[VPC ピア機能とは](#)」を参照してください。

脆弱性

システムのセキュリティを脅かすソフトウェアまたはハードウェアの欠陥。

W

ウォームキャッシュ

頻繁にアクセスされる最新の関連データを含むバッファキャッシュ。データベースインスタンスはバッファキャッシュから、メインメモリまたはディスクからよりも短い時間で読み取りを行うことができます。

ウォームデータ

アクセス頻度の低いデータ。この種類のデータをクエリする場合、通常は適度に遅いクエリでも問題ありません。

ウィンドウ関数

現在のレコードに何らかの形で関連している行のグループに計算を実行する SQL 関数。ウィンドウ関数は、移動平均を計算したり、現在の行の相対位置に基づいて他の行の値にアクセスするといったタスクの処理に役立ちます。

ワークロード

ビジネス価値をもたらすリソースとコード (顧客向けアプリケーションやバックエンドプロセスなど) の総称。

ワークストリーム

特定のタスクセットを担当する移行プロジェクト内の機能グループ。各ワークストリームは独立していますが、プロジェクト内の他のワークストリームをサポートしています。たとえば、ポートフォリオワークストリームは、アプリケーションの優先順位付け、ウェーブ計画、および移行メタデータの収集を担当します。ポートフォリオワークストリームは、これらの設備を移行ワークストリームで実現し、サーバーとアプリケーションを移行します。

WORM

「[Write-Once-Read-Many](#)」を参照してください。

WQF

「[AWS ワークロード資格フレームワーク](#)」を参照してください。

Write-Once-Read-Many (WORM)

データを 1 回のみ書き込むことで、データの削除や変更を防ぐストレージモデル。承認済みユーザーは、必要な回数だけデータを読み取ることができますが、変更することはできません。このデータストレージインフラストラクチャは、[イミュータブル](#)と見なされます。

Z

ゼロデイエクスプロイト

[ゼロデイ脆弱性](#)を悪用した攻撃（一般的にマルウェアによる）。

ゼロデイ脆弱性

実稼働システムにおける未解決の欠陥または脆弱性。脅威アクターは、このような脆弱性を利用してシステムを攻撃する可能性があります。開発者は、よく攻撃の結果で脆弱性に気付きます。

ゼロショットプロンプト

[LLM](#) にタスク実行の手順は提示するが、実行のガイドとして役立つ例（ショット）は提示しない方法。LLM は、事前トレーニング済みの知識を使用してタスクを処理する必要があります。ゼロショットプロンプトの有効性は、タスクの複雑さとプロンプトの品質によって異なります。「[数ショットプロンプト](#)」も参照してください。

ゾンビアプリケーション

平均 CPU およびメモリ使用率が 5% 未満のアプリケーション。移行プロジェクトでは、これらのアプリケーションを廃止するのが一般的です。

翻訳は機械翻訳により提供されています。提供された翻訳内容と英語版の間で齟齬、不一致または矛盾がある場合、英語版が優先します。